SYMPOSIUM

Design for the World TOKYO



VOICE OF DESIGN

特集 **D**esign for the **W**orld **TOKYO**

report

日本デザイン機構 Japan Institute of Design

シンポジウムDesign for the World'99東京

日時:1999年7月5日(月)·6日(火) 会場:日本海運俱楽部 国際会議場

主催:日本デザイン機構 共催:日本経済新聞社

特別協力:財団法人国際協力推進協会

後援:外務省/通商産業省/国際交流基金/財団法人 日本産業デザイン振興会/財団法人 国際デザイン交流協会/財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター/社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会/社団法人 日本インテリアデザイナー協会/社団法人 日本クラフトデザイン協会/社団法人 日本パッケージデザイン協会/社団法人 日本パッケージデザイン協会/社団法人 日本サインデザイン協会

協賛:キッコーマン株式会社/小泉産業株式会社/株式会社資生堂/積水樹脂株式会社/テルモ株式会社/日本軽金属株式会社/ヤマハ発動機株式会社/YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社/凸版印刷株式会社

Design for the World'99 Tokyo Symposium

Period: 1999 July 5(Mon).6(Tue)

Venue: Nlippon Kaiun Club International Auditorium Organized by: Japan Institute of Design

Coorganized by: NIHON KEIZAI SHIMBUN, INC.

Special Cooperation: Association for Promotion of International Cooperation

Endorsement: Ministry of Foreign Affairs / Ministry of International Trade and Industry / Japan Foundation / Japan Industrial Design Promotion Organization / Japan Design Foundation / Urban Design Center / Japan Industrial Designers Association / Japan Interior Designers Association / Japan Interior Designers Association / Japan Craft Design Association / Japan Package Design Association / Japan sign Design Association

Sponsors: KIKKOMAN CORPORATION / KOIZUMI SANGYO CORP. / SHISEIDO CO.,LTD. / SEKISUI JUSHI CORP. / TERUMO CORP. / NIPPON LIGHT METAL CO., LTD. / YAMAHA MOTOR CO., LTD. / YKK ARCHITECTURAL PRODUCTS,INC. / TOPPAN PRINTING CO., LTD.



目次

特集 Design for the World

4x =
開会挨拶「解き放たれたデザイン」 栄久庵 憲司3.4
プレゼンテーション「Design for the Worldの生成から行動まで」
マイ・フェリップ 5.6
基調講演「Design for the Worldの地球観、デザイン観」
オーガスト・モレロ
記念講演「地球をめぐる21世紀の課題とデザイン」
波多野 敬雄
メッセージ : アンドレ・リカルド・・・・・・・・・・・・・・・15
セッションキーノート「Design for the World・その使命と展望」
デビッド・グロスマン ······17~18
セッション A 「地球課題へ挑戦するデザイン」
パネリスト: アレキサンダー・マヌー/ マリアンヌ・フランドセン / 石山 修武
コーディネーター : 大宅 映子······19~26
セッションB「地球問題を解決するデザイン」
パネリスト: デス・ロウブシャー/フリッツ・フレンクラー/ギィ・ショッカート
/ 鴨志田 厚子
7 1000-13 3
コーディネーター: 水野 誠一27~32
セッション C「ワールドデザインの行動計画」
パネリスト: ロバート・ブレーク/ アントニオ・プッシュ/田村 明
コーディネーター:佐藤 典司 ····································
OW Methodology ······39
事務局から40

CONTENTS

Special Issue Design for the World
· Opening speech [Liberated Design] Kenji Ekuan · · · · · · 3.4
· Presentation [From Establishment to Action Plan of Design for the World]
Mai Felip · · · · · · 5.6
· Keynote Speech [Design for the World's Point of View on World and Design] Augusto Morello · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
· Commemorative Speech [World Issues for the 21st Century]
Yoshio Hatano · · · · · · · 11 ~ 14
· Message:Andre Ricard · · · · · · · 15
· Session Keynote [Design for the World, Its Vision and Mission]
David Grossman17~18
· Session A [Discover, Define, Design: A New Methodology for Proactive
Design]
Panelist:Alexander Manu/Marianne Frandesen/Osamu Ishiyama
Coordinator:Eiko Ohya · · · · · · 19~26
· Session B [From World Problems to Design Solutions]
Panelist:Des Laubscher/Fritz Frenkler/Guy Schockaert/Atsuko Kamoshida
Coordinator:Seiichi Mizuno · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
· Session C [Action Plan of World Design]
Panelist:Robert Blaich/Antonio Puig/Akira Tamura
Coordinator:Noriji Sato · · · · · · 33~38
DW Methodology · · · · · · 39
From the Secretariat · · · · · · 40

VOICE OF DESIGN

日本デザイン機構 Japan Institute of Design 東京都港区虎ノ門1-2-18 ボノ門興業ビルフF 〒105-0001 Phone: (03)5521-1692 Fax: (03)5521-1693 1999年9月15日発行



趣旨:

Design for the Worldは、地球環境、資源エネルギー、高齢化、 高度情報化などの細分化した専門分野だけでは取り組むことの 困難な今日の課題に対し、様々な専門を結びつけ創造的にチャ レンジすることを目的に昨年創設された新たなデザインの世界 組織です。このDesign for the Worldの役員を招聘して、地球を 視野にした分野を越えたデザインプロジェクトの策定、行動計 画などについて検討します。

テーマ: 「Design for the World―地球をデザインする」

常に変化する地球は、たえず新しい問題を生みだしています。 そうした問題によって歪みや塗り残しがでている地球は、いわ ば描きかけのタブローです。そのタブローに新たなビジョンを 描き込むには、様々な専門を横断する知恵と行動の国際的な連 携が求められます。デザインは分野をこえた総合を図ることで、 より強固な創造の力を発揮します。地球をデザインすること、 横切りのデザインによって新たな地球のビジョンを描くことが これからの世界のデザイン課題となっています。

プログラム

7月5日

PM 開会挨拶/プレゼンテーション/基調講演/記念講演 7月6日

AM セッションキーノート/セッションA

PM セッションB/セッションC

Design for the World(abbreviated as DW)is a new international design organization that creatively challenges global issues such as global environment, energy resources, ageing society, advanced information environment and many others that are beyond capacity of single professional field to cope with. By inviting board members of the Design for the World, the organizer is identifying design projects from global and interdisciplinary point of views and action plans and implementations will be discussed.

Theme: Design for the World

Ever changing world is always bearing new issues. The issues make the world as an unfinished tableau. Design has been required horizontal international coordination of various professions to bring a new vision into the tableau. Design will demonstrate stronger creative power by the coodination beyond professional fields. Designing the world, envisaging new world vision will be a subject for the world from now on.

Program

July 5

PM Opening speech / Presentation / Keynote Speech / Commemorative Speech

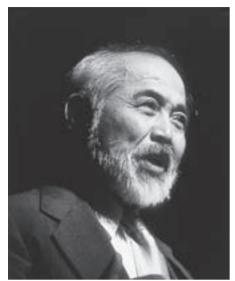
July 6

AM Session Keynote / Session A

PM Session B / Session C

開会挨拶

「解き放たれたデザイン」 栄久庵 憲司



Mr. Kenji Ekuan

近代化は人類に多大な貢献をもたらし ました。能率を高めながら非常に奥が深 く、しかも大変直截な世界を構築しまし た。そして一方それが強力であるが故に 他が見えにくくなったところがありま す。今、様々な負の遺産が問題として浮 上しています。近代は我々に強い示唆と 同時に厳しい反省をも促しているので

近代化を促進する過程で専門分化が多 岐にわたって進みました。それぞれの専 門分野の存在は手に例えるなら、指の一 本ずつといえます。それぞれの専門領域 で「これだこれだ」と一生懸命指さして いく。しかし残念ながら一本の指では物 を掴まえることは出来ません。我々の目 の前にある大きな問題、新しい問題、近 代化が生み出し落とした負の遺産を把握 するためには一本の指では不可能です。 私は正に近代化の申し子であるインダス トリアルデザインが専門ですが、例えば 都市問題でもランドスケープデザイン、 アーバンデザイン、建築、インテリアデ ザイン、グラフィックデザインのそれぞ れの指が必要です。それらがあって初め て問題が掴めるのです。つまり縦割りに なった多様な専門分野を、横割りに繋げ て問題を発見し掴まえることが、今強く 求められているのです。

「解放」という表現は厳しい言葉です。 今まで出来なかったことを衆知を集めて 「ああすれば出来る、こうすれば出来る」 とやることが正に解放なのです。つまり 指一本で出来なかった事柄を、互いに繋 がり沢山の知恵と力が集まれば、もっと 深い力が出来るのではないかと考えると ころに、デザインの大きな解放があるの ではないかと私は考えています。その意 味で指は5本、10本に限らず100本でも200 本でも欲しいのです。

「我々の力で改めて地球を作っていこ う」と私はよく言います。しかも虹色に 輝くように作ることが肝要です。創造力 を持って物事を総合的にとらえるとい う、デザイン本来の総合的な資質を再構 築し、社会的役割を強化するためには、 専門組織の協働に向けて我々は行動を開 始する時です。

周知の通り、今、地球は実に様々な問 題を抱えています。それらを直視し、 我々の力を合わせて明日を築いていく新 しいデザインムーブメントとして考えた いのです。基本的な問題である社会福祉、 医療・保健、老齢化、労働、教育、文化 のためのデザイン。緊急を要する災害対 策、難民、避難民の問題。新しい思想で 見直す必要がある観光の問題。今こうし ている間もコソボでは我々の仲間が必死 の思いで暮らしているという現実から目 をはずしてもいいのか、ということです。

そんなに沢山の問題を一気に手がける ことはとうてい出来ません。一つ一つや っていきたいと考えています。

今回は東京発信ですが、今後、ソウル であり香港でありシドニーであり、ニュ ーヨーク、ロンドン、パリ、モスクワと 展開していくことによって、正に地球を 丸く見ることが出来るようになり、地球 を我々の手で近くにおいて「我々の地球」 であるのだと確認したい。地球を自分た ちが手当しないで一体誰が手当するのか と。正に地球をデザインする時が来たの ではないか。コミュニケーションやトラ ンスポーテーション技術は加速度的に発 達しています。様々に文明が発達した上 に立って、自分たちの大地、自分たちの かけがえのない宇宙の故郷をどうしてい くかということこそ、我々が今考えなけ ればならない大きなターゲットではない でしょうか。

私は20年位前から、国連の主催する国 際年で「デザインイヤー」 が実現するこ とを願ってきました。これはただ唱えて いるだけでは駄目で、デザイン関係者が 結集してある種のパワーが出来れば国連 組織も関心を示すに違いありません。今 まで国際年として福祉と高齢社会、水、 環境、居住など様々に行われてきました が、それらをすべて集めると、やはり最 後は「デザイン」を必要とするのです。 最後はデザインの問題になってきます。 我々のDesign for the Worldの運動も、願 わくば国連に持ち込み、デザインイヤー を実施することによりデザインの意義を 一歩引き上げ、自分たちと自分たちが住 んでいる地球を直接繋げて、そこから出 てくるメソッド、プロジェクト、解決法、 そしてそれらに必要な経済的対策などを 検討することが必要です。

先に挙げた諸問題についても経済の裏 付けが特に重要です。なぜなら問題に時 間的猶予がないからです。我々は勇気を 奮ってメソッドを考え、中身を調べ、道 筋を作ってお金を繋げていく、今回のシ ンポジウムでは、そうした点が具体的に 語られることになります。皆様の深いご 理解を期待します。

栄久庵 憲司 DW会長/日本

(株) GKデザイン機構代表取締役会長、国際インダストリ アルデザイン団体協議会(ICSID)名誉顧問、日本デザイン 機構会長、(財) 国際デザイン交流協会理事等。



Opening Speech

Liberated Design Kenji Ekuan

Modernization brought forth many benefits to human beings. While enhancing efficiency, it created the profound and straightforward world. The impact of modernization was so strong that we may have missed other elements. And now, various negative effects are surfacing. Modernization is presenting suggestions to us, and at the same time it urges us to reflect on our past conduct.

In the process of modernization, specialization has progressed into many branches in all sectors of society. If I liken this to a hand, fingers can be considered to be branches of specialization. You can pinpoint a problem in that specific area, but you cannot grasp anything with one finger. The problems, emerging problems and negative legacies caused by modernization cannot be gotten hold of by a finger. I am specialized in industrial design, which is a product of modernization. To design a city, for example, requires fingers of landscape design, urban design, architecture, interior design and graphic design. It is only with these fingers, that the problem of city design can be solved. We are now at a time when we should identify problems and get hold of them by linking these vertically divided specialized genres in an interdisciplinary manner.

The term "liberation," in terms of design, means a method of problem solution by putting heads together. When people of different specialties come together to discuss a problem from different angles to find a solution, we can display stronger power. Here, I assume, lies a liberation of design. In this sense, we need more fingers, not five or ten, but 100 and 200. I often say, "let us make the globe anew with our strength." The globe we are going to make should be shining as a rainbow. In order to enhance the comprehensive quality that design innately has and to strengthen its social roles, we must take action to mobilize specialized design organizations to work together.

The earth now has many serious problems. I would like to ask you to face these problems squarely and join a new design movement to create a better tomorrow together. Designers should be involved in the areas of social welfare, medicine and health care, aging population, labor shortage, education and culture. We should work for more urgent problems such as disaster prevention and rehabilitation, refugees and displaced people, and tourism that should be viewed from a new perspective. Even at this very moment, our colleagues in

Kosovo are living under hardships. Can we close our eyes to this reality? We are not able to address all these problems at once, but I wish that we could address them one by one.

We are meeting in Tokyo this time, but we would like to meet in Seoul, Hong Kong, Sidney, New York, London, Paris, Moscow and other places in the future. By so doing, we will be able to see the earth as a globe, and confirm it as "our globe" that we should care for. Who will take care of the globe, if not us? The time has arrived when we must design the globe itself. Communications and transportation technologies are advancing at an accelerated speed. How can we design our mother earth, and the only home for human beings in space? This is the greatest challenge for us to accept.

I have been advocating the designation of the International Design Year by the United Nations. If design organizations work together for the Year, the UN will be interested in this. So far, we have had the International Years of Disabled, Older Persons, Water, Environment, Habitat and so on. If we combine efforts to improve our world under these headings, "design" is necessary. It is the task of designers to consider how these problems are approached. I wish that our movement of "Design for the World" can be brought up in the arena of the United Nations, and resolution of the International Design Year can be achieved. Thus, the significance of design can be better recognized. By involving many designers, there will be various ideas of methods, projects, and solutions and active discussions on the means to raise funds for them

Financial backing is necessary to solve urgent issues. We must struggle to look into the situation, devise methods, and channel money to these methods to solve problems. The symposium today will be instrumental to consider these points. I expect your active participation and deep understanding.

Kenji Ekuan: Chairman of DW / Japan

Chairman of GK Design Group, Senator of International Council of Societies of Industrial Design (ICSID), Chairman of Japan Institute of Design, Board Member of the Japan Design Foundation.





プレゼンテーション

Design for the World の生成から行動までマイ・フェリップ



Ms. Mai Felip

皆様こんにちは。私は、本日また、日本に戻れたことを嬉しく思っています。私が最初にこの美しい国を訪れたのは10年前、1989年に名古屋で開催された世界デザイン会議のときです。スペイン代表団の一員として、ガウディの作品展示にも携わるなか、日本のデザイン団体の方々との出会いもあり、今日に至る友情を培うことができました。尚、当時から、日本の政府関係がデザインの奨励に熱心であったことが記憶に残っています。

Design for the World の生い立ち

さて、どのようにしてこの団体が生まれたかを、ここでお話します。このような団体、デザイン諸分野を横断する国際的な組織の設立に関する議論は10年ほど前に遡りますが、1997年になってようやく歴史的な会議が開かれます。その年の12月に、私の故郷でもあるバルセロナにIFI(国際インテリアデザイナー連盟)、ICOGRADA(国際グラフィックデザイン協議会)、ICSID(国際インダストリアルデザイン団体協議会)の代表が集まって、2人の代表を選出しました。その代表のもとに準備グループが編成され、設立準備作業が進められました。

そして、1998年8月にDesign for the Worldの憲章が発起3団体により署名され、具体的な活動へのスタートをきります。以降、今回の東京会議まで、行動計画についての議論が煮詰められており、

2ヶ月後の9月にシドニーで開かれる総会で批准の予定です。その間、発起団体の間で検討経過について緊密な連絡をとりあって、間違いを起こさないように努めて参りました。また、バルセロナ政府には多大なるご支援をいただきました。

バルセロナからのメッセージ

ここで、バルセロナのクロス市長より 預かった書簡を紹介します。「親愛なる 栄久庵会長殿。 バルセロナ市を代表して、 Design for the Worldの本部を私たちの街 に置けること、たいへんに光栄に感じて おります。ご存知の通りバルセロナはデ ザインをテーマに掲げております。そこ に、Design for the Worldの活動が加わる ことにより、デザイン都市バルセロナの 名声は世界中に広がることになるでしょ う。現代は日々新しいものが生まれる時 代ですが、そうした中にあってデザイン の営みはたいへんに重要になってきてお ります。デザインを通じてクリエイティ ブな人たちの共同作業が街中で繰り広げ られるようになり、それがこれからのバ ルセロナの産業と文化の支えとなってい くことでしょう。(中略) バルセロナ市 は、この活動に対して積極的な支援を行 いますが、これが他の国あるいは団体が 同じような支援を行う契機となることを 願っています。いつかまた東京で皆様と お会いしたいと思います。一尚、このよ うな財政的ないし精神的な支援は、カタ ロニア州政府やスペイン国王からも戴い ておりますことを、ここに付け加えてお きます。

シドニーからの展開に向けて

ともあれ、Design for the Worldは、デ



ザインを人間社会のために役立てようという、その考えを現実化するための団体として、やっと目に見える形になりました。小さいところからのスタートです。 事務局も私と補佐役のクリスティーナ、あとはボランティアの協力です。でも、この世界にあって本当に必要とされていることに取り組んでいこうと思っています。それは、デザインの新しい、しかも重要な在り方にもつながっていきます。

参加については幅広く呼びかけています。例えば国際建築家協会、国際ランドスケープ協会、世界クラフト会議といった国際団体や地域に根ざしたデザイン組織など、UNESCO(国連教育科学文化機関)や国境なき医師団のようなNGOとも協力関係をもちたいと思っています。すでに行動計画も策定しております。後ほど別の理事からお話させていただきます。

さて今後のステップですが、まず重要なのはシドニーでのプレゼンテーションです。そこから、いくつかのプロジェクトに着手したいと思っています。おそらく生命、医療、環境の分野になるでしょう。その次の1ヶ月はスポンサー企業の獲得に従事したいと思います。是非、皆様にも様々なかたちでご参加いただきたいと思います。

最後になりますが、この場をお借りして、このシンポジウムにご尽力いただいた日本デザイン機構の方々はじめ、ご後援いただいた行政、新聞社、企業の皆様に、感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

マイ・フェリップ DW事務総長/スペイン バルセロナ・デザイン財団理事長代理兼事務局長(1997年現在)、ICSID名誉顧問。バルセロナ商工会議所環境委員会理事、バルセロナ2000計画委員会委員、カタロニア文化国際委員会委員等。



Presentation

From Establishment to Action Plan of Design for the World Mai Felip

Greetings to you all, I am pleased to be back to Japan again. It was a decade ago that I visited this beautiful country to attend the World Design Conference held in Nagoya in 1989, as a member of the Spanish delegation. While I was involved in showing Gaudi's works, I came to know many Japanese designers of different design organizations, with whom I continue to have warm friendship today. I remember very well that the Japanese government offices were keen to encourage good designs.

Birth of Design for the World

I would like to talk about how this Design for the World was born. It dates back about a decade ago when the establishment of an international interdisciplinary design organization was first discussed. But it was only in 1997 that the historic conference was held. In December of that year, representatives of the IFI, ICOGRADA and ICSID gathered together in Barcelona, my hometown, and appointed two persons to organize a preparatory group for such an organization.

In August 1998, the Charter of Design for the World was signed by the three organizations, which marked the official start of the activities. Since that time to today, discussions for the Action Plan have occurred arriving close to a conclusion to be ratified by the Assembly held in Sidney in September this year. The three original organizations have kept close communication to avoid any mistakes or misunderstandings. The Barcelona City government has given us great support.

Message from the Mayor of Barcelona

I would like to read the message from Mr. Clos, the mayor of Barcelona. Dear Mr. Ekuan, Chairman $\,$

"On behalf of the city of Barcelona, I would like to inform you that we are very honored to have the head office of Design for the World in our city. As you know, Barcelona has design as its theme. By hosting the activities of Design for the World, the name of Barcelona as a city of design will be come better known to the world. We are in the times when new things are created every day. At such times, design work has increasing importance. Through design work, joint efforts with creative people will evolve here and there in the city, and they will be great support for the industry and culture of Barcelona. (omit) The City of Barcelona will continue to give positive support to the activities of Design for the World. I hope that other countries and organizations will join us to support the activities. I wish I could see you all again in Tokyo."

I would like to mention that we receive financial support or mental support also from the government of Catalan province, and the monarch of Spain.

Development from Sidney

Design for the World became visible as an organization to realize an idea to make design useful to human society. It is still small. We have only myself and an assistant, Christina, and a few volunteers. However, we attempt to address the problems which are really urgent today. This will lead to a new significance of design.

We are inviting various design organizations to join us, such as the International Architect Association, International Landscape Association, and International Craft Conference as well bas community-based design groups. We are intending to cooperate with UNESCO and NGOs including Medicins sans Frontiere. Our Action Plan is almost completed. Another board member will explain about it later.

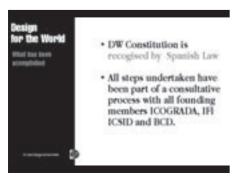
For the future, the presentation of the Action Plan at the Sidney Conference will be of immediate importance. From this Action Plan, we will begin to implement some projects. It is most likely that these projects will be in the fields of life, medicine and environment. For the following months, we will be engaged in finding sponsors. I hope you will participate in our activities in one way or another.

Finally, I would like to take this opportunity to express my thanks to the Japan Institute of Design for organizing this symposium, as well as the government offices, newspaper companies and other companies which support this symposium.

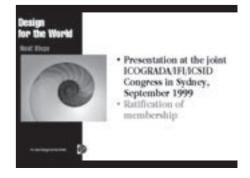
Mai Felip: Director General of DW / Spain

Deputy Chairperson, Executive Board of Barcelona Design Foundation, Senater of International Council of Societies of Industrial Design, Board Member of the Environment Commission, Barcelona Chamber of Commerce and Industry, Member of the Technical Commission, "Strategic Plan Barcelona 2000," Member of the International commission for the diffusion of Catalan Culture.









基調講演

Design for the Worldの地球観、デザイン観 オーガスト・モレロ



Mr. Augusto Morello

私は少し哲学的に、デザインとは一体何か、デザインはどうあるべきか、そしてどうあると考えられているのかをお話します。こうした考察は9ヶ国の理事から構成する私どもの理事会で行ったものです。そしてIFIとICOGRADAとを通して日本を含む65の世界の国々の声を反映しています。今日、問題提起をしたい点は、デザインの定義に新しい次元・側面すなわち倫理的な次元(エシカル・ディメンション)を示すことであります。

過去を振り返るとモノが人間の歴史に 大きな変化をもたらしたことが分かりま す。例えば馬具です。7~8世紀、ヨーロ ッパに鐙が登場し、馬に鐙をつけること で戦争の仕方が変わり、その結果、世界 が大きく変わり、そしてヨーロッパに封 建制度が登場しました。それから鋤、そ れもかなり進んだ鋤を農業で使い、食糧 生産が何倍も増大しました。農業の効率 が大きく向上したのです。モノの登場に より直接的な分野だけが変わったのでは なく、その周りも変化が起きたという重 要な側面があります。もののフォルム、 形を変えるだけではなく、往々にして、 世界の、社会のフォルム、あるいは形を 変えたわけです。

私はイタリア人ですので、つい、ルネッサンスの話になってしまいます。ブルネルスキ。フィレンツェのドゥオモのキューポラを設計した人ですが、彼は国の

政治家として(彼はデザイナーでもあり、政治家でもあったのです)政治の理念そのものを変えました。そして二世紀後、多くのエンジニアがいたトスカーナ地方で、ガリレオが新しい科学観を考え出すに到るようなモノ(望遠鏡)を生みだしたわけであります。

次に18世紀は工業そのものだけでなく、ディトロと、ダランベール(百科全集を編集した人たちですが)といった人たちが登場して、モノの様々で複雑な側面に注目したのです。ある一定の形でデザインされ、作られ、使われるモノを詳細に記述することで、デザインを通した革新が人間活動の基本的な部分であることを明らかにしました。

工業化、産業化は、モノの原理が変わっただけではなく、作り方、製造方法が、いわゆる工芸品として作られるのではなく、連続生産に変わったのです。工業化・産業化の最も大切な側面は、イノベーション・革新の重要性を認識するに至った点です。

モノが存在する仕方も興味深いことに、単なる複雑から更に複合へと進みました。例えば自動車を単なる一つのモノ、物体と考えると、文化としての自動車は理解出来ません。自動車はシステムだからです。今デザインの範疇で作り得るるあです。今デザインの範疇で作りのものものもも重要な点は、車のための車という点であります。これはまさに過去なく、システムのための車ととはなく、システムのための車ととはなります。これはまさになります。更に実際面でまますと、開発・発展の連続性とその結果である革新と、生物学的な突然変異の間に非常に密接な類似が見えます。これ



は遺伝系、あるいは族・種・固体の系を つくることと同じ、競争と代替が人工物 にもおこっているのです。

第2の点に触れます。市場志向型経済では、デザインは客観的な有用性の生成と、主観的な有用性の生成、その二つの丁度境界線にあって、作るモノの価値を構成し、富の質を決める活動であります。すなわちデザインは客観的有用性、機能性、人間工学、標準化の適用、そして新しいモノ、あるいは技術を適応させ、問題解決を行うのです。主観的な有用性は、シンボル、あるいは心理学的な価値、あるいは意味をモノに与えます。

デザインは個人あるいは社会が何を求めているのかを見つける能力だと思います。デザインという言葉を耳にしますと通常人々は近代的デザインを思い浮かべるでしょう。特に消費財の形、フォルムが想像の大半を占めています。そしてそれが持つ意味論的、あるいはエルゴノミックス、美学的側面に思いが行きます。そしてその快適さという古くからの概念も思い起こさせます。決してこれは2次的なものではありません。

ここで申しあげたいのは、欲望・希望・欲求と、必要不可欠とは違うということです。つまり英語でいうデザイヤーとか、ニーズは、ネセスィティー、必要不可欠とは違います。例えば、人々あるいは社会の快楽主義は、個人や人間社会、人間の文化・環境全体の生存が危ぶまれる時には、全く意味を持たなくなります。確かに技術・テクノロジーは役に立ちます。しかし技術は人間が作るものですが、だからといって必ず人類のためになるとは限りません。技術によって人が傷つけ



Keynote Speech

Design for the World's Point of View on World and Design Augusto Morello

I would like to present a new dimension for design, that is ethical dimension. The past teaches that objects have been responsible for profound changes in the history of humanity: from the stirrup on saddles for horses which - as it has been demonstrated - had an important role in the introduction of the feudal system in Europe (France, 8-9 c.), to the introduction of a more advanced plough - contemporary to the new system of three fields rotation in agriculture, and to the pectora of horse (Italy, 10-11 c.) - which, giving larger and better chances of nutrition, is considered one of the premises of the end of the Middle Ages. Those, and many other objects like windmills, watermills and other genotypes, highly contributed to the evolution ont only of material culture but of the human society itself.

Technology is not enough; and, from Brunelleschi in early 15th century to the Tuscan engineers before Leonardo, this is evident from the times of Italian Renaissance. The Encyclopedia of Diderot and D'Alembert (1754) which simultaneously presented production techniques and the forms and ways of use of products, confirmed that innovation through design is a fundamental part of the human activity. The age of Industrialization born with the Encyclopedia has been described not especially because it was connected with serial production, but mainly as the era of the discovery of the importance of innovation.

Through their way of existing which goes from the complicate to the complex, technical objects behave like biological species, in other words a philogenesis takes place; and this has relevant implications in the concept of the development of the objects of material culture. An automobile, for example, cannot be understood as a culture if you consider it simply as an object, because an automobile is a part of the social system. The most important thing to design a car today is to design a car for the system, and not a system for the car. We must consider the system for transportation. On the pragmatic plane, the idea of continuity of development institutes a close analogy between innovations and the biological mutations that originate genera, species and families of individuals, such that they are subject to the same processes of competition and replacement that affect artificial goods.

In a market orientation, design is an activity on the bordering between the production of objective utility and the production of subjective utility, which together constitute the value of

goods and determine the quality wealth produced. In effect, design induces objective utilities, such as functionality, ergonomics, adaptation to the yardstick system, and even solutions that adapt this latter to new goods and technologies; subjective utilities, when it imbues goods with meaning and symbolic and psychological values.

Design can be defined as that conceptual activity that does not so much search for that the individual and social user wants - or seems to want - as that activity that know how to find what the user might might. Therefore, when design is mentioned, the thought normally goes to the history of modern design, dominated by forms of consumer goods - and by their semantics, ergonomics, aesthetics. The old ideology of comfort inspires all those dimensions; and this is not a secondary aspect, especially when the actions made with and through objects are repetitive and become a monotony. So, design has been extended to the tools of agriculture craft, industry and services; distinguishing the segments of workers.

What is a desire or a need for one becomes a necessity for others. So, in principle, different situations raise the discovery that needs and necessities are not the same thing; and such a distinction becomes more evident - and sometimes dramatic - when individual and social hedonism is irrelevant in front of the survival of individuals, of human society, and even of entire human cultures and environments, for today, tomorrow and long far into the future. Sure, technology helps. But, in spite of the fact that technologies are themselves human products, they do not automatically give advantages to human beings: and normally the time required to correct the damages of some of them is so long that many human beings can be hurt. In those situations, the intervention is an objective necessity and not just a subjective desire; and design of products, services and systems becomes an imperative. And every imperative involves an ethical dimension.

In fact, design is the main factor whereby technologies are humanized, and reveals the nature of research: complementary to but not dependent upon the technological one. Such research is 1) complementary, because no technology on its own is capable of determining complete innovations for the individual and/or for society; 2) not dependent, both because the same technology can be interpreted in different forms and configurations, and because design increasingly often stimulates new technological research and solutions. As a distinct



Design for the Worldの地球観、デザイン観 オーガスト・モレロ

られることもあります。それを正すには 非常に長い時間がかかり、その間に人が 損傷を受けることもあるのです。ですか ら、この時に介入を行うのは、主観的な 欲求ではなく客観的な必要不可欠なネセ スィティーなのです。

そこで登場するのが倫理的な次元です。製品・サービス、そしてシステムのデザインに介入しなければいけないのは緊急なものであり、介入するには倫理的な次元が必要です。

3番目のポイントは、技術を人間的な ものにし、その真の意義を明らかにする 中心的な役割を果たすのがデザインで す。技術だけでは完全な革新を社会や個 人のために完成させることは出来ませ ん。そういう意味でデザインと技術は相 互補完性であります。もう一つ、同一の 技術の解釈は色々な形状フォルムあるい は構成形態で行うことが出来、また、デ ザインは新しい技術的な研究あるいは問 題解決の触発も出来ます。技術的・社会 的情報を考え、あるいはデザインの方法 論の開発も必要になります。それからど うやってそれを示すのかを考え、最終的 には出来た成果の評価も行なうなど、デ ザイン以上あるいは以外のことも沢山考 えなければいけない。そういった研究分 野もデザインであります。

しかし今、デザイン文化は非常に広が りを見せ、必ずしも倫理的な次元を取り 入れるだけの余裕がないのです。その一 つの理由は色々と現在複雑で緊急を要する問題があるけれど、それが一つにまとまって見える焦点が合う場がないことにあります。非常に危険な、文化的に足りない部分があり、その背景として、複雑で予測不可能なものが増え、色々な選択肢がある中ではデザインすることそのものがもう不可能ではないのかというのです。

それからまたもう一つ非常に形式主義 的な傾向が特に末端の流通部門に見られ ます。つまり革新のための革新に気を取 られ、顧客満足といった企業とエンドユ ーザーとの関係の論理について検討する ことが何よりも必要だと考える、マーケ ティングの形態に支配されています。更 に、地方の自治体ですと、様々な人の設 流のための色々な組織、あるいは施設の デザインを考える時に、純粋に経済的に プラスになるデザインを選び、自分を告 が続括している地域の人々の合意を得 うとします。企業が生まれたり、雇用の 創出につなげることよりも経済性が優先 されます。

次に第4のポイントは、今、私たちの世の中は新しい課題がたくさんあります。持続可能な開発から、物理的資源の節約、環境保全、リサイクルその他が挙げられます。それから多様化の問題、民間およびコミュニティーのサービスのデザインのあり方、ローカルとグローバルの対立、そして社会経済的、あるいは社

会文化的な衝突を考えなくてはいけません。また(身体)障害にどう取り組むかという包括的デザインの問題であり、また多民族社会という非常に大きな深刻な問題を私たちに突きつけております。その一方で貧困、避難民、子供達そして高齢者をどうするのかという、複雑な問題もあります。これから生まれてくる世代にどのような形で満足な世界を残すのかを問われています。

このような全ての倫理的な次元は、デザイン的なアプローチによって答えが出せます。これはデザイナーやデザインに関わる世界のコミュニティーの態度にかかっています。その正しい対応によって明確な形で、この問題に対処することが出来ます。

往々にしてこのような問題は、確固たる成果を上げないことがあります。効果的な問題解決が得られないこともあります。にもかかわらず、言葉や、こうしたいという意図だけではなくて、願望だけではなく、具体的な形で解決することが特に重要なのであります。それがデザイン・アプローチによって可能になります。

このDesign for the Worldの発起団体である国際組織、ICSID、ICOGRADA、IFI は会議や、総会などの場で、社会学者、経済学者、そして非常に予見的な展望を持つ学生たちを組み込んで作業・探求を行ってきたのです。この将来の課題に今こそ行動を起こし、言葉だけではない実際の現実のデザインアプローチを通じて問題の解決をしなければならない時期にきています。このような状況においてDesign for the Worldは正に、現実の世界のために、プラスになるものを創出できる透明性の高さを示す団体であります。

皆様のご協力を心から願い私の挨拶と いたします。どうもありがとうございま した。



オーガスト・モレロ / イタリア ICSID理事長、イタリア工業デザイン協会会長、スティルインダストリア誌編集長、コンパッソ・ド・オーロ賞審査員(1997年)、イタリア・マーケティング協会会長(1976年-1988年)等。

Keynote Speech

Design for the World's Point of View on World and Design Augusto Morello

form of research, design and its development require preand/or meta-design places and chances; for the purposes of technological and sociological information; for studying, criticising and comparing i.e. developing design methods for studying configurations and expressive languages, developing and spreading the necessary professional skills and capacities among the creators, and lastly varifying and interpreting the results.

But the diffused design culture in practice is not always ready to afford the ethical dimension of design; partly because it is pushed by the needs of the market's objectives, and partly because there does not exist a site for an appropriate focalization of the many, complex and urgent issues of humanity and its environment.

The situation now is one of dangerous cultural shortfalls. In the background of this are theses that seem to question whether it is possible to design in the face of increasingly complexity and of the unpredictability. There are also increasingly frequent formalist tendencies, diffused and encouraged by end distribution interested in innovation for innovation's sake, dominated by a form of marketing that feels the need to review, such as in the practice of customer satisfaction , the logic of the relationships between enterprises and users, especially end-users.

In addition, considering the design in the arena of exchanges, local administrations are more interested in adopting the purely economic design advantages as factors in achieving local affirmation and/or as a cause of consensus among those whom they administer, if not as one leading to the birth or development of enterprises and job creation.

There is now notoriously a plethora of new themes from sustainable development to saving physical resources to environmental protection (indicating the well-known recycling and dismantling practices), from the problem of local versus global to designing (private and community~ services, taking the socio-economic and socio-cultural impact of tele-informatic and bio-technologies into account, from disability (or rather inclusive design) to the multiple requirements of the multi-ethnic society that is now development, a society that will also prove to set a hard test indeed. But there is, as well, a huge amount of problems requiring solutions on the front of poverty, refugees, children's and elderly people's problems, There is even the hard question of what we are doing for leaving an



acceptable world to future generations.

All these ethical aspects can give, with a design approach, answers that, just because of the attitude of designers and of the entire world's design community, will have nothing of the abstract, as this type of challenge produces in too many cases. Because really, design approach and practice determine effective solutions, as products, services and systems that become facts and not only words, intentions; and many times velleity.

For many years, international bodies such as ICSID,ICOGRA-DA, IFI, have debated such types of issues in their congresses, conventions and assemblies, having socilogists, economicsts and visitorary sstudents and protagonists of thjeir exploration of ethical dimension of the future. This is because this future has become so near that in many aspects it is now alreeady becoming reality, many think the moment has come for turning the words into actions. As it is the very nature of design research, Design for the World is the transparent name of the ideal place for the benefit of the world. Help us to fulfill our task.

Augusto Morello: Vice President of DW / Italy

President of the ICSID, President of the Associazione peril Disegno Industriale (Italy) Managing Editor of "Stileindustria" (Design Research Quarterly), Juror of Compasso d'Oro (1997). President of Italian Marketing Association (1976-1988).





記念講演

「地球をめぐる21世紀の課題とデザイン」 波多野 敬雄



Mr. Yoshio Hatano

21世紀、国連は何をすべきか検討中

私は今、世界各国から16人選ばれた中の1人として、21世紀に国連が何をすべきかを考える会議に参加しています。話し合いの中から三つの方向・課題が出てきています。

第1は、21世紀は「グローバライゼーション」の流れが急速に進むであろうということです。それに従い光の部分と影の部分が出てくる。光の部分にはインターネット等の交信が益々便利になり、レジャーも観光も盛んになるのですが、問題は影の部分です。グローバライゼーションの結果として、環境、人口、難民、エイズ感染、麻薬、地雷、テロというような問題が次々に出てくる。これをどう抑え対応するかが課題です。

第2は、「開発」の問題です。今、世界の4分の3以上の国々が援助を必要としています。これらの国が経済的に発展することが、世界のためでもあり、どのように開発援助を進めて行くかです。

第3は「安全保障」です。世界の安全 をどのようにして保障していくか。これ は平和の問題であり軍縮の問題でもあり ます。

次にこの三つの問題について話を進めたいと思いますが、同時にそれはデザインが関与し得る問題であり、この三つの問題がそれぞれ間接的にデザインの問題にも関係して、デザインの分野を通じて、これらの問題が何らかの形で緩和されれ

ばいいなと期待を持つわけです。

グローバライゼーションの影の諸問題

まず第1の「グローバライゼーション」の影の問題ですが、これは日本が主張しているのです。「20世紀は国の安全保障の時代。しかし21世紀は、人の安全保障の時代に移るのではないか」と。人の安全保障とは、グローバライゼーションの影の諸問題を、いかに処理するかということです。しかし、これが非常に難しい。先進国と途上国の間に大きな意見の対立があってどうしてもまとまらない。これが大きな問題であるという認識では16人の間で一致しているのですが。

いくつか例をとってみたいと思うので すが、まず『環境問題』があります。こ の問題は先進国にとって最重要課題と思 われていますが途上国の意見と一致しま せん。「今のように地球を汚したのは先 進国であって、その当事国が環境の基準 を作ろうというのは、途上国は工業化す るなということになる。処理するのはま ず先進国がやるべきであり今後、途上国 が工業化の過程において若干汚すかも知 れないが、それは当然の権利である。」 というのです。私は環境問題は、日本を 含めた先進国自らがライフスタイルを変 えることによってのみ、途上国に説得力 を持ち得ると考えます。自らも改め、そ して途上国へも要求することは要求す る。それが地球のためであるというのが、 これからの環境問題の解決のあり方だと 思うのです。

次に『人権問題』がありますが、最も 難しい問題です。7年前、国連のUNDP (国連開発計画)の年次報告書の標題は 「自由と援助」でした。そしてそこに



「自由の指標」と題して投げかけた質問 がありました。「自由がない、民主主義 がない、人権が蹂躙されている、そうい う国が経済的に豊かになることは世界に とって良いことなのか」という疑問でし たが、途上国側が一斉に反発しました。 特にアジアの国が強く反対したのです。 アジアの論理は「豊かになれば結果とし て自由が生まれ、民主主義が生まれ、人 権も尊重されるようになる | です。これ は多分に真理を含んでいると私は思いま す。しかし中国はどうか。経済的に豊か になったとして、共産主義政府は国民に 自由な投票権を与えるか。その場合、チ ベット、新彊(しんきょう)、内モンゴ ルはどうかと。結局アジアの論理は多分 に真理を含んではいるけれどすべての国 には適用できないという意見になったの です。

『人口問題』は、5年ごとに世界人口会議が開かれますが、前回のカイロで問題になったのは「そろそろ人口抑制のために人為的手段(産児制限というよりは人工中絶)に積極的な支援を与える必要がある」との意見が出たときです。カトリックの中枢であるバチカンが絶対反対を唱え、カトリック諸国、中米、南米の国々、更にイスラムの原理主義の国も反対し、結局人口問題のその対立は未だ解けていません。

『難民問題』は宗教の問題であり民族の問題がその背景にあります。コソボの場合のように人々が殺しあい民族浄化を行っている状況において、私たちは二つのことを行わなければいけない。一つはお金を出して難民を助けること。もう一つは難民を自分の国へどれだけ受け入れるかです。日本は受け入れに関して非常



Commemorative Speech

World Issues for the 21st Century Yoshio Hatano

What the UN should do in the 21st Century

I am now working in a group of 16 persons selected from the world to consider what the United Nations should do in the 21st century. I see three major issues.

First is the process of globalization which will be accelerated. As it progresses, there will be light and shadow. In the light aspect, communication through the Internet will be promoted and become more convenient. People will spend increasing hours in leisure and tourism. The problem is the dark aspect of globalization. Globalization will also bring forth problems across the borders such as in the fields of environment, population, refugees, HIV/AIDS infection, drugs, land mines, and terrorism. How can the UN control them? This is the number one problem. The second issue is "Development." At this moment, more than three quarters of the countries in the world need foreign assistance. Their economic development will benefit the world as a whole. So, how can we promote development assistance to them?

The third one is "Security." How can the UN ensure the security of the world? This is the problem of peace and disarmament.

I would like to discuss these issues. These are the issues that design can involve itself in, even though indirectly. I expect that designers can help mitigate the existing problems through their design involvement.

Problems in the Shadow of Globalization

Japan is proposing a concept that the 20th century was an age of national security and that the 21st century is to be an age of the individual person's security. The security of individual persons is implicitly related to how we can settle the problems of the dark aspect of globalization. This is very difficult. There are great gaps in view between developed and developing countries. They can hardly reach an agreement, even though all the 16 members admit the importance of narrowing the gap.

Let me cite some examples. First is the "environmental issue." Environmental conservation is considered as the top priority task for developed countries. But when we come to discuss the criteria to control pollution, both parties do not come to an agreement. Developing countries say, "it was industrialized countries that have polluted the earth, making the mess we have today. And now they are proposing to formulate the cri-

teria for environment conservation. It means that developing countries should not promote industrialization. They must first make efforts to clean the environment. We may pollute the earth a little in the process of our industrialization, but we have the right to do so." I believe that only when people in industrialized countries including Japan change our lifestyles will we be able to persuade developing countries to restrict industrial discharges. We must mend our ways and urge developing countries to do what should be done. This is the approach to solve environmental problems for the sake of the earth.

My second example is the "human rights issue," which is most difficult. The title of UNDP's annual report seven years ago was "Freedom and Assistance." Under the caption "Indices of Freedom," a question was asked, "Is it good for the world that a country without freedom nor democracy and in which human rights are violated becomes economically affluent?" Developing countries were repelled all at once by this. Countries in Asia were especially opposed to this question. They said, "If we become richer, freedom emerges and democracy will come about, and human rights will be respected." There is reason in what they said. But how about China? If China becomes economically well-off, will that communist government grant the right to vote to the nation? Even if the right is granted, will people in Tibet, Xinjiang and Inner Mongolia be granted with the same right? Therefore, even while admitting that what Asian leaders have said has reason, we concluded that perhaps this reason could not be applied to all countries.

Another example is "population." The United Nations holds its Population Conference once every five years. In the latest conference held in Cairo in 1994, some delegate said "in order to control, we should support artificial means (meaning induced abortion) more positively." The Vatican Council as the center of Catholicism opposed this idea strongly, followed by Catholic countries in Latin America, and by countries believing in Islamic Fundamentalism. Consequently, the conflict over population control has not yet been settled.

The last example of "refugees" involves religious conflicts and ethnic conflicts in the background. Where people are killing each other in the name of ethnic cleansing as in the case of Kosovo, we need to give two types of assistance. One is to contribute funds to save refugees, and the other is to receive



「地球をめぐる21世紀の課題とデザイン」 波多野 敬雄

に消極的です。コソボはヨーロッパだからNATOを始め世界も関心を持ったが、アフリカでも同様なことが日常茶飯事におこなわれている。これからの世界は、こうしたことについても、より敏感になって行くでしょう。

以上がグローバライゼーションの進行 に伴う問題です。それぞれが複雑な問題 を含んでいてまだ解決の方途が見出せて いないというのが正直なところです。

開発・援助をめぐる問題と国連機関

第2の「開発」の問題は、援助の問題 であり、途上国を豊かにすることが世界 のためであり、かつ援助国にもプラスと して跳ね返ってくるということについて は、世界で一応の合意があると思います。 但し、どのようにして効率的援助を行う か、そして国連がどのような役割を果た すかとなると全くコンセンサスが得られ ないというのが現状です。16人の間でも 常に意見が対立する。というのもこの分 野の援助の問題は国連の外で行われてい るからです。「ブレトンウッズ体制」の 継承により金融の問題はIMF(世界銀行)、 貿易の問題はWTO(国際貿易機関)で行 われ国連は完全にバイパス状況におかれ ている。途上国は「他の問題は国連がや っているのに援助の問題はなぜ国連は発 言権が持てないのかしという疑問を呈し ています。一方先進国は「援助はそれぞ れの国の納税者の税金に依っており、納 税者にいかに有効に使われたかを説明す る責任がある」として先進国の論理を優 先しています。世界一の援助をしている 日本人の考えだと「自助努力をしない国 へいくら援助しても豊かにならない。無 駄ではないのか」となりますが、国連に 言わせると「日本は自助努力できる国で すが、アフリカの多くの国、他民族で宗 教も異なり、教育程度も低い、政府も統 治能力がない国にどうやって自助努力を 期待するのですか。」となります。そう いう国へはまず人道的な見地を優先す る。これからの援助の最も重要な要素は 「人道援助」であるというのが、世界の 流れといえます。

もう一つ援助の流れに関していえば、 二国間の援助と、国際機関を通じて行う 方法があります。今まで日本も前者が多 かったのですが国際的に段々と後者へ移 行しているのが世界の流れだと思いま す。その場合、国連の中で有用な役割を 果たす機関として、まず、UNDP(国連 開発計画)があります。従来は調整役を やってきましたが、今後は自らお金を持 って援助するようになるだろうと考えま す。

人口問題を扱っているUNFPA(国連人口活動基金)へは、日本が圧倒的な資金援助を行っています。それと保健衛生問題を扱っているWHO(国際保健機関)、食糧問題のFAO(国連食糧農業機関)、更には教育・文化を扱っているUNESCO(国連教育科学文化機関)の地位は飛躍的に増大しなければならないし、する運命にあると思います。そして、援助の分野におけるデザインの役割は非常に重要であり、世界の期待も大きいと考えています。

安全保障と多様な価値観・文明

第3の「安全保障」の問題は、平和と 軍縮の問題です。ここで一番複雑なのは 人権問題とのからみです。最近の紛争の 相当多くがそれで、典型例がコソボです。 NATOの論理からすると「赤信号の向こ う側で人がバッタリ倒れていた。赤信号 だが渡ってその人を助けに行くことは違 法だけれど正当である。やらなければな

アフリカはもっと違う。

安全保障で一致しているのは紛争が起 きる前の予防外交による調停です。

6年前、フォーリン・アフェアーズ誌 に「文明の衝突」という論文が載りまし た。冷戦が終わって、これからは武器に よる紛争よりも、文明の衝突の方が、大 きな問題ではないかと提議されました。 最も典型的なのはイスラム文明と西洋の 文明はどこで一致点を見出せるかという 疑問です。そのことはイスラムに限らず アジア文明も西欧文明と一致点を見出す ことが難しいかも知れない。そこで必要 なのは相互理解・相互協力であり国境を 越えたあらゆる分野の協力、特に文化・ 教育の協力が必要です。明らかに言える ことは21世紀は政府の役割は小さくな り、民間の役割が大きくなると言うこと です。そして民間に最も大きな影響力を 持っているのはメディアであることをメ ディアに自覚していただき、その上でこ のDesign for the Worldについても、力を 尽くして頂ければありがたいと思う次第 でございます。

波多野 敬雄

(財) フォーリンプレスセンター理事長、特命全権大使在国際連合日本政府代表部 (1990年)、国際赤十字委員会諮問委員、中央環境審議会委員等。



Commemorative Speech

World Issues for the 21st Century Yoshio Hatano

refugees in our own countries. Japan is very reluctant to receive refugees. As Kosovo is in Europe, the NATO and the world as a whole paid greater attention to the problem. However, killings between different ethnic groups, or religious communities are almost everyday affairs in Africa. The future world should become more sensitive to these occurrences.

The above are globalization-related problems. Each of them are complicatedly tangled and at this moment, we have not found ways to solve any of them.

Problems related to Development Assistance and the UN Agencies

The problem of "development" is, in turn, the problem of assistance. There seems to be an agreement that helping developing countries to become richer will benefit the world, and that their return will come back to donor countries. However, there is no agreement as to how efficient assistance can be given, and what roles the United Nations can play. Even among the 16 members, there are always conflicting opinions. It is because the decision on assistance is made outside the United Nations. The Bretton Woods system has been inherited and world financial issues are dealt with by the IMF and the World Bank, and trade issues by the World Trade Organization. The United Nations is completely bypassed. Developing countries ask the question why the United Nations has no say in the discussion of development assistance when it takes full responsibility in other issues. Developed countries say "we give assistance from the money collected from tax payers, so we are accountable to them to explain how we use money meaningfully. The Japanese, now the number one donating nation, may think "If we give whatever money to a country where people do not help themselves, the country will not become richer. We are giving money in vain." But the United Nations will say, "Yes, the Japanese can help yourselves, but how can you expect people in many African countries to make self-help efforts? Most of their societies are multi-ethnic, multi-religious societies, with low educational standards. There are societies without any government nor governing competence." To such countries, the humanitarian point of view is emphasized. The most important element in the future assistance will remain "humanitarian assistance."

There are two methods of assistance. They are bilateral assistance and multilateral assistance through a UN Agency. Bilateral assistance has been in the main in the assistance from Japan so far, but on the global level, multilateral assistance is increasing. Among the UN Agencies is the United Nations Development Program (UNDP) which is taking an

ncies is the United which is taking an

important role. It has acted mainly as a coordinator so far, but it will have its own budget to assist projects.

The Japanese government is donating an overwhelming portion of the expenses of the UNFPA that deals with population issues and family planning. The positions of the WHO, FAO and UNESCO should be enhanced by a leap. They are destined to have greater roles. In the area of development assistance, the role of designers is essential, and the world is expecting much from you.

Security and Diverse Values and Civilizations

"Security" means the problem of peace and disarmament. The most complicated in this problem is the relation with human rights. Most of the recent disputes have this difficulty to some extent. A typical one is Kosovo. a NATO officer may say "There was a person fallen down on the ground. Although the traffic light was red, I went across the street to help him. It is illegal, but can be justified." Countries of Asia may say, "It is a problem of values. It is not accepted in Asia. The principle of the international laws is noninterference." As typically presented by Indonesia's "musyawarat" Asian people will seek a settlement through negotiations and forging consensus. Civilization in the Middle East is different and that in Africa is even more different.

What we all share in the security issue is that we need preventive diplomacy before any dispute occurs. Six years ago, a thesis titled "Collision of Civilizations" was included in Foreign Affairs magazine. It suggested collisions of civilizations would cause greater problems than armed conflicts after the end of the Cold War. The typical question was where Islamic civilization and Western civilization could find a point of agreement. Not only that, Asian civilization and Western civilization may face difficulty in finding agreement. What is necessary to narrow gaps between different civilizations is mutual understanding and cooperation. Cooperation across the national borders in all sectors, in particular in the fields of culture and education is required. One thing is clear about the 21st century. That is, the roles played by the government will be reduced, and the private sector will have greater roles to play. The media has the strongest influence on the private sector. I would like to ask the media people to be aware of this fact, and play their due roles in spreading Design for the World.

> Yoshio Hatano: President of Foreign Press Center, Former Ambassador of Japan to the United Nations. / Japan.

> Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary, Permanent Representative of Japan to United Nations in New York (1990), Member of the Group of International Advisers of the International Committee of the Red Cross, Member of the Environment Council of the Japanese Goverment, others.



メッセージ

Message

アンドレ・リカルド

何年も前に、栄久 庵憲司は夢を持ちました。全てのデ剤能力を持っての が、その創造 的能力を持って集え は、人道的なことがでといる のではないか、とい うものでした。デザ



Mr. Andre Ricard

インはもはや、裕福な社会のための創造 的な手段とは考えられなくなっているの です。現実的な問題を解決する能力が、 世界的な問題の解決に特に役立てられな ければなりません。環境、教育、保険、 そして人々の福祉に関連するいろいろな 問題に対してデザインがその創造的専門 性を発揮するべきなのです。

最初から我々は、この夢を信じ実現したいと望んでいました。主要な国際デザイン組織がDesign for the Worldの発起団体として全面的にこの考えを支援します。デザイン界は今や、人々の安寧のための課題にむけての実りある協同の道を手にしました。デザインの創造的な専門性が不可欠な問題において、たしかにそれが言えるのです。

Design for the Worldは、親身になって 人々を支えます。今や民間や政府の間で も、この組織の人道的目標達成とその実 践の趣旨を受け入れていただいていま す。

残念ながら私は、この東京会議には出 席できませんが、ご成功を祈ります。

アンドレ・リカルド DW 理事長/スペイン スペインデザイン協会創設者、前にSID副会長、現在スペイ ンインダストリアルデザイナー協会会長、バルセロナ・デ ザイン・センター副理事長、バルセロナ経済振興協議会会 員等。

Andre Ricard

Some years ago Kenji Ekuan had a dream; to see all design disciplines joining their creative skill to be able to take an active role in humanitarian tasks. Design can no longer be only considered as the creative tool for opulent societies. Its proved capacity in finding helpful solutions to practical questions has to be at the service of those major problem of the world for which design is particularly prepared to work for. Environment, education,health-care and generally all those other aspects related with the well-being of people are fields in which design has to bring his powerful resource of creative expertise.

From the beginning, many of us belived in this dream and wished to contribute in making it possible. The main international design organizations fully support the idea and have been the founding member of Design for the World. The design world has now a tool through which a fruitful collaboration to problems related with the well-being of people can be given. Precisely in problems where the creative expertise of design could be an indispensable help.

Design for the World offers a friendly hand to assist people in need. it is now on the side of the private and public spherea to take into account this generous offer allowing our assosiation both humanittarian tasks to fulfill as well as means it needs to do so. I wish a great success to this Tokio meeting I was unfortunately unable to attend.



Andre Ricard: President of DW / Spain
Founder of Spanish Design Society, Former Vice
President of ICSID, Presently President of Spanish
Association of Industrial Designers, Vice President
of Barcelona Design Center and Member of
Barcelona Economical Promotion Council.



Reception

Board Members of DW



Reception

Kenji Ekuan, Chairman of DW



Reception

Mr. Yasushi Akashi, Former Vice Secretary General of UN.



Reception

Symbol objet of DW



Press interview



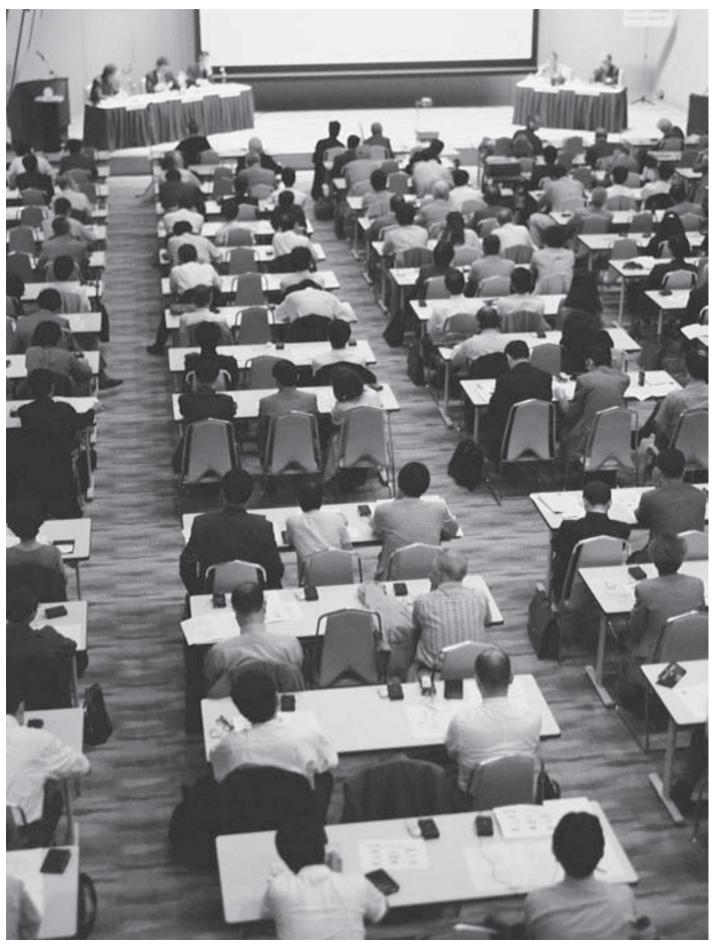
Press interview



Board Meeting of DW



Visit to the Japan Federation of Economic Organization



セッション キーノート

Design for the World・その使命と展望 デビット・グロスマン



Mr. David Grossman

過去百年間技術の革新、工業化により、 人間は物理的な環境に大きな影響を及ぼすようになり、それに伴い肯定的、否定的な結果が生れています。国によっては工業化で生活水準の向上、移動の自由、通信、様々な機会の享受が可能になりました。しかし全くその恩恵のない人々もいます。またその代償を支払った国もあります。多くの場合自然環境が破壊され、地球に対する公害の影響が宇宙にまで及んでいます。また技術そのものを破壊に使う場合が多々ありました。20世紀、大量殺戮が工業化と方法論によってこれほど効率よく行われたことは歴史の中で今までなかったでしょう。

20世紀が工業化の時代ならば21世紀は デザインの時代です。物理的環境に大き な影響を及ぼし、地球を変える能力をど う使い、何を達成したいかの意図すなわ ちデザインの問題です。デザインとは実 用性を立証する、確保する、作るプロセ スの中で最も重要な要素であります。し かし、デザインという用語そのものが十 分理解されておらず、専門家でもデザイ ンをきちんと定義できません。形状のこ とであったり、美学のことであったり、 あるいは機能そのものであったりしま す。私の考えるところ、デザインという 用語はデザイナーが作るプロセスの最終 製品ですが、デザインとデザインをする プロセスの間に混乱があることが問題だ

と思います。デザインそのものは見たり さわったり、使ったり、買ったり、備蓄 したり、また売られたりする有形の物で す。それに対し、デザイニング、プロセスは無形、目に見えない物です。今日ま でデザインされた物に対して執着しるように されていますが、デザイナーとしてスより はのデザインを生むプロセスをように はいり、デザインという言葉がより まです。デザインという言葉がより の人に理解されればその認知度も高 り、目に見える空間的、物理的な環境に 作用できます。

デザインのより実用性のある定義と は、作り手側の意図で、目に見える、物 理的な、空間的な環境に形を与えること であります。大きな意味でデザインは、 文化的、社会的ニーズであり、その意図 を人間的な環境に応用することです。社 会的、技術的に革新的なアイデアにデザ インを通じて形を与え、推進することで す。特にポスト工業化社会においてはデ ザイナーは、これはグラフィック、製品、 建築全てを含み、経験とコミュニケーシ ョンを作る役割を持っています。またデ ザイナーが経験を作っていく能力によっ て生活の質が次の世紀でより向上すると 考えております。しかし、能力には責任 が伴います。国際的なデザインのコミュ ニティがその役割と責任を見直す時期に きています。

全ての国に住む人々のよりよい社会を 形作るためにはグローバル経済に全ての 国が参加する必要があります。自由市場 経済とは競争を意味し、競争とは選択を 意味します。そこに自由市場経済でのデ ザインの役割があると思います。グロー バル経済、グローバル市場、グローバル 製品、グローバルブランドと言いますが、 その中で恩恵を受けるのは地球人口のわ ずかな人々です。現在7億人の人々が、 製品及びサービス指向の経済に住んでお り、その社会の中ではデザインが非常に 積極的な役割を果たしています。また次の世代になると、さらに7億人の人々がより高度な経済の中に住むでしょう。ということは、今後数十年間、経済発展の駆動力となることであります。しかし今日、世界人口の大半は工業化からあまり恩恵を受けていません。デザインのメリットは経済的に恩恵を受けている人々に限られているのです。

デザイン、デザイナーは全人類の生活の質を上げる能力を持っております。それがDWの設立に至った経緯であります。DWは特定し支援し実行します。DWは全大陸を対象として文化的、経済的活動を促進し、しかも全人類に共通のビジョンを持って行います。地球とは共有の資源であり、保護されるべきと考えています。

DWはプロジェクトに関して様々な方法論を構築してきました。例えば実現可能性の評価を行う方法論です。DWはデザインの専門家団体がその責任を見直した現れです。またいずれは金融団体との協力も考えております。そして生活の質、平和と理解の向上に貢献したいと思います。すでに根幹の部分で世界のデザインコミュニティを代表しております。

DWは活動の触媒であります。ニーズ を特定し、特別の専門チームを設置し、 デザインの問題解決法を開発し資金を調 達し、パートナーシップを形作り、スポ ンサーとの橋渡し、適切なNGOとの橋渡 しを行います。デザインの力で生活の質 の向上が初めて可能となります。全ての 人を対象として、デザインは21世紀がよ り多くの人々にとってより良い時代にな ると保証します。そして工業化が実り、 技術進歩が全人類の共有のものになるよ う、革新的な解決策を提供します。そし て皆様のパートナーシップが是非とも必 要です。私どものアイデアを公的に発言 できる機会は本日が初めてです。ありが とうございました。

デビッド・グロスマン DW 理事/イスラエル テルアビブ・環境グラフィックデザイン事務所開設、テル アビブ・デザイン研究センター協同設立(1987年)。国際 グラフィックデザイン協議会(ICOGRADA)次期(1999-2001)会長等。

Session Keynote

Design for the World, Its Vision and Mission David Grossman

Over the last 100 years, through industrial processes, and technological advances, man has gained a large measure of control over the physical environment. These abilities have led to both positive and negative results. In some countries, industrialization has provided a higher quality of life, improved standards of living, freedom of movement and communication and opportunities. On the contrary, a price has also been paid. Most typically, the natural environment has been plundered, and the effect of pollution on our planet is increasing and visible even from space. Technology has also been used for destruction. Murder and genocide were made dramatically more efficient by industrial processes and methodology.

If the 20th century is characterized by industrialization, the 21st century will be characterized by design. How best can we apply our ability to control the physical environment? It is a question of intent, and intent means design. Design is the most important component of the manufacturing process that ensures usefulness. But the term design is not understood. Though very popular and trendy, the public and even most professionals are not able to define design. Often, it is discussed in terms of form or aesthetics, or function.

The problem I think rests with confusion between designs - the end product of what designers do - and designing - the process through which the designers create designs. Designs can be seen, touched, used and felt. But designing, the process, is invisible. While it may be forgivable for the public to be preoccupied with what has been designed, we designers must be more interested in the process of designing - the process which will produce tomorrow's designs.

I submit that we should better define the process of design. We should attempt to make the invisible more understandable rather than discussing design in terms of visible or even functional attributes. Design would be more understandable to more people, if its crucial role in manufacturing and the creation of the visible, material and spatial environment was recognized.

A more useful definition of design would the application of intent, the process with which we create the increasingly malleable visual, material and spatial environment. To a great extent, design is the way in which cultural and social needs and intentions are applied to the man-made environment. Design, just as it responds to social and cultural pressures, can also take a leadership role. Through design, innovative ideas, be they social or technological, can be rapidly introduced and promoted. In dealing with the visual as well as the physical environment, especially in those societies approaching post-industrialization, we see that the role of designers (graphic, product or architectural) is to create experience and communication. And it is the increasing ability of designers to create experiences which will permit us in the next century to dramatically improve the quality of life. With the ability comes responsibility. It is important that the international design community examine its role and responsibilities.

In order to ensure better futures for their populations, all countries must participate in what is becoming a truly global economy. Free market economy means competition and

competition means choice. We all recognize the inherent role of design in free market economies.

Yet, despite the talk of a global economy, global products for a global market and global brands - only a small part of the earth's population benefits from the improved quality of life that design can provide. Today, only 700 million people live in product and service oriented economies in what design plays a pro-active role. It is estimated that a further 700 million people will join these more advanced economies over the next generation. The enormous potential in this growth will be the engine for economic development over the next decades. But, for today, and for the next generation, the vast majority of the world's population does not significantly benefit from industrialization or from design. The benefits of design are usually restricted to the economically privileged.

It is the recognition of the ability of design and designers to improve the quality of life for all of humankind that has led to the establishment of Design for the World.

Design for the World will serve all continents. Its goals are to implement design activities devoted to promoting cultural and economic activities with a humanitarian vision. Design for the World has developed a methodology for reviewing appropriate projects - assessing feasibility, cost and relevance to its mission statement. It will provide assistance by seeking partners and collaborators for the design projects, coordinating the financing and fielding the professional resources for implementation. Through partnership with other international organization and NGO's, we will implement the projects. We look to collaboration with financial entities to provide support for this important work. Together, we will be able to bring the benefits of design to much greater parts of the world, and make an important contribution to the quality of life, peace and understanding. It is the first opportunity to announce our concept in public.

$\textbf{David Grossman}: \textbf{Board Member of DW} \, / \, \textbf{Israel}$

Opened Tel Aviv environmental graphic design office in 1980, co-founder and director of Vital Tel Aviv Center for Design Studies, Israel (1987). Board Member / Treasurer of International Council of Graphic Design Associations (ICOGRADA) in 1995, Elected President of ICOGRADA for 1999-2001.



セッション A 「地球課題へ挑戦するデザイン」

パネリスト: アレキサンダー・マヌー

マリアンヌ・フランドセン

石山 修武 コーディネーター: 大宅 映子

大宅 映子: 私はデザインを個人、使う側の立場から考えなくてはいけないと思っております。もう一つは、もっと大きく、地球規模の全体から見た日本だったり個だったりを考えなければいけないと云う二つのスタンスを持っております。今日一日でなるべく具体的に、こういうものだということが提示されるであろうと思っております。最初にマヌーさんからお願い致します。



Ms. Eiko Ohya

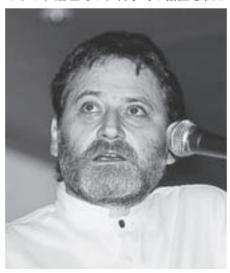
大規模煙害地域を救うユニバーサルマスク アレキサンダー・マヌー: DWでは人間 のための道具を既に様々デザインしてい ます。私はまず、プロジェクト評価の方 法論を紹介します(39ページ参照)。こ れを使ってプロジェクトの選定をしま す。優先順位の点数が高いものを出来る だけ早く実施し、財政的、その他の資源 を集中的に当てるのです。実現可能性、 社会或いは地域にとっての価値、プロジ ェクトがDWの使命にどれぐらい重要か、 そして時機、この4つが尺度になります。 そして3つの指標を使って判断します。1 つはプロジェクトの時間的な緊急性、第 2は行動の形式、3つ目が、行動の時機で す。

ユーザーベースは、最低限5千万から1 億人を考えています。プロジェクト化に 際し調査、定義を具体的にし、予算を見 積ります。そして実現可能性の点数でプ ロジェクトの評価をします。

この採点システムを使った大規模な具

体例の一つユニバーサルマスクを紹介し ます。無料の、再利用可能な煙害対策マ スクです。97年のエルニーニョの影響に よるインドネシアの森林火災に伴う煙害 が東南アジア全域で起き、もう手がつけ られなくなり、人体の健康への影響を防 ぐしかありませんでした。具体には煙を 吸い込まないようにすることです。何百 何千万という子供たちを中心とした住民 が家から外に出られず影響を受けまし た。0.4ミクロン以下の非常に小さな微粉 子の化学物質が煙に含まれています。新 聞などの写真を見ますと人々が外科手術 用のマスクを付けています。しかしこの 外科手術用のマスクは10ミクロン以上の ものしか除去できないので、それだけで は予防出来ません。防毒マスクが煙対策 として効果が高いのですが、重く、付け 心地が悪く、そして呼吸するにはかなり の努力が要るので子供たちには向きませ ん。なんといってもお金がかかり、日常 生活をするために付けるのには適しませ

これは人々誰もが持っている「呼吸する権利」の問題です。高齢者、子供たちが最も被害を受ける世代です。実際に入院したのは8万5千人です。マレーシアでは何千人もの赤ちゃんが入院しました。一人一人の赤ちゃんの顔を思い浮かべる必要があるのです。これにはやはり感情的に反応することになるでしょう。しかし、この子供たちがきちんと呼吸ができるよう、論理的な、科学的な措置を執る



Mr. Alexander Manu

必要があります。火災そのものは局地的ですが、その影響は地球的なものです。 風、或いは森林火災は国境を越えます。 我々の感情としてすぐに何かしなくては と思います。ということで、とても高い 点数が付けられました。

これはあくまでも対症的な解決策で す。この煙害を受けている緊急地域に無 料で再利用可能なマスクを7千万人に配 ることを考えました。2つ動機がありま す。1つは国境を越えた問題であること。 それから環境への悪影響であります。こ れはプラスチックのマスク本体にフィル ター材料、理想的には絹、或いは綿繊維 などを間に入れます。基本的には何度で も洗濯可能なものを間に挟めば良いわけ です。このマスクは10ミクロン以下の粒 子は70%ろ過出来ます。外科手術用のマ スクよりは遙かに効果が高いものですが 70%ですから、保護用具として完璧なも のとはいえません。100%の防毒マスク は価格が高く、実現性は低くなります。

ゴールは3つあります。1つは煙害に関 係する活動、森林火災、或いは森林伐採 の問題に対する意識を高揚させ、様々な 影響を引き起こす問題を指摘することで す。2つ目、このリ・ユーザブルマスク を出来るだけ多くのところで使ってもら うことです。このマスクを付けている人 を目にし、或いは目立つたびに、原因が 注目されることを期待しております。そ れから3つ目は、このプロジェクトのス ポンサーを世界的なベースで獲得するこ とですが、我々のプロジェクト全てに共 通する最も重要な点は、出来るだけ社会 全体を議論に巻き込んでいくことです。 生命を守ること、コミュニティを向上さ せること、これを手に届く形で提供して



Session A Descover, Define, Design: A New Methodology for Proactive Design

Panelist: Alexander Manu
Marianna Francesca

Marianne Frandesen Osamu Ishiyama

Coordinator: Eiko Ohya

Eiko Ohya: I consider, first, that design should be approached from individual users' points of view. Secondly, we should see Japan, or individuals, from a wider perspective, on global horizons. Design is hard to define. But looking at concrete projects today, I hope we can have a better understanding about design. First, Mr. Alexander Manu will explain about his project.

A universal mask to save people affected in the large haze region

Alexander Manu: DW has designed various tools. I would like to introduce to you our project assessment methodology. We analyze all our projects by this methodology. It is based on a priority system. We take into consideration feasibility, user value, mission criticality and timing. We consider the time sensitiveness of each project, the type of action, and when the action is to take place.

We consider a large beneficiary base between 50 million to 100 million people. We categorize projects and give feasibility scores. We have a scoring system and according to the criteria and points, we give a score to all projects.

Now, I would like to explain about the universal mask as an example of DW projects based on this scoring system. This is a reusable mask given free of charge to protect a person from air pollution. Through much of 1997, a dense blanket of smog caused by forest fires in Indonesia took a terrible toll on human health across Southeast Asia. Children were forced to stay at home. The only way to protect people was to have them wear a mask so as not to inhale smoke. I saw photos of people were wearing surgical masks. But these are not able to filter out particles of less than 10 microns, As the particles in the haze are much smaller than 10 microns surgical masks do not provide enough protection. Respirators designed for workers with occupational health hazards are effective, but are expensive, uncomfortable, and require the effort of breathing. So, they are not good for children to use in daily life.

It was not a problem of a basic human right to breathe. The elderly and children suffered most. As many as 85,000 were hospitalized. In Malaysia alone, 15,000 small children were treated in hospitals. We must imagine the faces of coughing children. We may react emotionally, but we need to be rational and scientific to provide them with some means to breathe. Although fires are local, their impact is global.

We proposed that this reusable pollution mask be distributed to 70 million people in the affected region free of charge, and DW gave it a high score. We were motivated by two reasons, one was that the haze was an international problem, and that it had tremendous influence on the environment. This is a single part plastic component using a live hinge, having an outer surface and an inside liner. Between the outer surface and liner, we insert a filter material, desirably silk, or generally cotton and paper towels. They can be washed and reused. The mask can filter 70% of the particles of less than 10 microns, so it is not as perfect as a respirator, but it is better than a surgical mask.

We have three goals to achieve through this mask project, they are:

- 1) to enhance the awareness of the activities causing haze: deforestation and forest fires,
- 2) to promote the use of the Reusable Pollution Mask as a protective device in areas affected by such fires. We expect that people will consider causes of using such a mask when they see people wearing them. And,
- 3) to promote the sponsors of the project on a worldwide basis.

Our intention is to engage society at large in discussing the underlying issues that led and will continue to lead to catastrophe.

DW will consider the sponsors and partners as people concerned with the protection of life, the enhancement of community and quality of living through affordable, accessible and effective solutions. We believe that our approach is a meaningful and motivating premise to the project sponsors, the user base and society in general.

Our initial targets are people affected by slash-and-burn agriculture in Indonesia, Malaysia, the Philippines and Brazil. We will concentrate on the 153 million under 15 years of age, who are most vulnerable to the effects of smog.

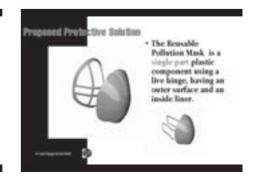
Our immediate goal is to distribute 72,000 units weekly reaching 2.5 million masks in the first eight months. Toward this end, we will enter into agreements with local area NGOs. DW will not continue making the mask ourselves. We would like to hand over our torch to the local NGOs. DW will provide specific guidelines to local NGOs as to the maintenance of filtering materials with a view to increase the effectiveness of the product.

Funding of 1.9 million dollars is required for roll out and the implementation of the marketing and advertising program. We trust that sponsoring this project will represent a sound social investment for all the parties and partners involved. We invite you to take a share in it. Thank you.

Ohya: Thank you Mr. Manu for presenting the project assess-







セッション A 「地球課題へ挑戦するデザイン」

パネリスト: アレキサンダー・マヌー

マリアンヌ・フランドセン

石山 修武 コーディネーター: 大宅 映子

いくことであります。我々のアプローチ は非常に意味があると考えております。 そしてスポンサーにも、ユーザーにも、 一般的な社会にも大きな動機付けになる と考えております。インドネシア、マレ ーシア、フィリピン、ブラジルが今のプ ロジェクトの対象ですが、特に年齢的に 15歳以下の、1530万の最も脆弱な子供た ちを対象にしております。毎週7万2千の ユニット、最初の8ヶ月で250万のユニッ トを配布したいと考えております。 WHO、NGOの普通の活動でこれが使わ れることを期待しています。我々DWと して最後までマスクを作り続けることは しません。最終的にはこの松明(たいま つ)をローカルなNGOに引き継ぎたいと 考えています。

実施にはおよそ190万ドルの資金が必要です。少なくとも5つのスポンサーが必要になり、このプロジェクトはスポンサーにとって非常に健全な、社会的な投資となります。皆様の参加を待っております。ありがとうございました。

大宅: どういったことをやるかといった、重要度を決めるには評価制度がいるわけで、評価する方法論の具体的な例として何度も使えるマスクを発表していただきました。次はフランドセンさんにアクセスビリティについてお願いします。

社会の中での高齢者の移動のデザイン

マリアンヌ・フランドセン:accessibility、アクセスのし易さ、特に高齢者のための可動性、移動性についてデザイナーの立場からお話します。

ある85歳のおばあさんがショッピングセンターの自動ドアの前でためらっていました。なぜためらったのかといえば、床の色の対比でした。明るい色のタイルと、濃いグレーのアスファルトが丁度ドアの開閉部分で切り替わっていました。このような床材のコントラストは普通は床の段差が階段を意味します。このおばあさんの視力は85歳の女性としては正常で、歩行能力も年相応のものでした。おばあさんは2秒間躊躇したために自動ド

アとぶつかってしまい、彼女はよろめいて倒れ、腕の骨とお尻の骨を折り病院で手術を受けてリハビリも必要でした。最終的には体力も低下しました。もちろんその女性が受けたショック、当惑、そして自分の能力が足りないという無力感はいうまでもありません。

この自動ドアが自動なのは部分的にはユーザーを考えてでしょうが、それ以外にも機械工学的な配慮、冷暖房用のエネルギーやお金の節約を考えた上で自動にしたのでしょう。皆さんはよく忘れがちですが、我々が目にする近代的都市、建物は、全世界で使うエネルギーの実に50%を冷暖房等に使っています。ですので、この自動ドアを通るときの躊躇に与えられる時間もおそらく綿密に計算してあると思います。。

問題の解決は簡単なはずです。つまりドアの方に、閉めても良いかと躊躇する時間をもう少し持たせる必要があります。そうすればユーザーがドアを通り抜ける際に時間の差があっても対処できます。本来常識で解るはずの、このようによく知られた事態が後を絶ちません。将来似たようなことが起こらないようにはそうないません。一方、混乱を防ぐためにこのような床の色の切り替えを変えなければいけません。この問題の解決には認識、意識を高める必要があります。 つまりユーザー、建築家、デザイナー、技術者、経済学者、環境保護者、政治家など



Ms. Marianne Frandsen

がその経験を生かすことが重要であり、 また適切なデザインを作るために必要な 時間を割くことが大切です。これがまさ に包括的なデザインに関わることです。 幅の狭い経済的な側面だけを配慮したた めに責任あるデザイン解決が阻害される 例があまりにも多くあります。私の申し 上げたい要点は、まず発見すること、公 共の市民が使う建物の開口部、ドア、と いったものをちゃんと見つけ、そして次 には明確化する。つまり異なるユーザー グループの機能的な要件や、冷暖房の要 件、関連コスト、適切なサプライヤーを 慎重に検討すること、これが明確化に必 要です。三番目はデザインです。誰もが 平等に使える開口部とし、柔軟性を持ち、 単純で、わかりやすいコミュニケーショ ンが出来、許容される誤差の幅も持ち、 最低限必要な物理的力で動くことがで き、そして近づき使いやすいためにサイ ズとスペースも十分検討し、この原理、 定説を適用する必要があります。それに よって全ての人のためのデザインが可能 になるのです。今申し上げた自動ドアの 問題は、近代的建物のデザインの複雑さ を表す数多くある問題の1つの例だと思 います。現在の世界ではアクセスのし易 さが重要と考えるべきでしょう。

今年1999年は国連「国際高齢者年」です。先進国では、年齢の分布がいずれ全人口の3分の2が65歳以上になるといわれています。この数字はアフリカの場合、エイズのため平均年齢分布は下がる傾向にあり、一部ではなんと17歳という平均年齢になる状況にあります。一方、我々は人生全体の10分の1の時間に何らかの障害を感じあるいは持っています。例えば子供であったり、妊娠していたり、時



Session A Descover, Define, Design: A New Methodology for Proactive Design

Panelist: Alexander Manu

Marianne Frandesen Osamu Ishiyama

Coordinator: Eiko Ohya

ment methodology based on the priority scoring system, and one concrete example of reusable pollution masks. I would like to call upon Ms. Marianne Frandsen to talk about Accessibility.

Accessibility and Mobility for the Elderly

Marianne Frandsen: I would like to talk about accessibility and mobility for the elderly from a designer's point of view.

An 85-year old woman hesitates a bit too long in front of automatic sliding doors in a shopping mall. She hesitates because of the contrast in the colors of the floor - clashing precisely in the door opening. Light tiles meeting dark grey asphalt. A contrast in floor colors usually means different levels, or steps, perhaps. Her eye sight is normal for an 85-year old woman, and her walking ability is normal for that age too. The two seconds of hesitation causes her to be hit by the sliding doors. She stumbles, falls and breaks her arm and her hip, resulting in hospitalization, surgery, rehabilitation and eventually a reduced physical ability. Not to mention the shock, the embarrassment - and the feeling of inadequacy.

The sliding doors are of course automatic. Presumably in part due to user consideration, but also due to mechanical engineering considerations; the saving of energy for cooling and heating purposes. You may not be aware, but about 50% of energy used in the world is used for cooling and heating in modern cities. So, the margin for hesitating is probably carefully calculated.

The problem could be easily solved: Let the doors stay open a bit more. Change the flooring to avoid a confusing contrast in color, and so on. This is common sense, and yet, numerous cases like this may happen. This sliding door case should be used to avoid similar accidents in the future.

The solution to this problem requires awareness. Experiences of users, architects, designers, technicians, economists, environmentalists and politicians must be used, and the necessary time should be spent to create a good design. Too often, narrow economical considerations prevent responsible design solutions.

My points are: first, to pay attention to openings in publicly accessible buildings, that is, doors. Then, study carefully the functional requirements of different user groups, of heating and cooling of the building, the cost involved, and appropriate suppliers. The third point is its design. Openings should have, equal usability, flexibility, simplicity, easy-to-understand communication, error tolerance, minimum requirements for physical power, and proper size and space for accessibility and use. When these seven principles are met, design for all

can become possible. The problem of the automatic sliding door is just an example to present the complexity in designing contemporary buildings.

This year is designated as the International Year for Older Persons by the United Nations. In industrialized countries, we will soon have two thirds of the population to be shared by people aged 65 and more. In contrast, for the next several years in Africa, average life spans tend to be shortened due to AIDS. In extreme cases, the average age of a population is predicted to be young as 17 years old. All of us are disabled for one tenth of our lifetime, being either children, pregnant, periodically ill, or hit by accidents and getting old.

The way we have developed our cities in this century has had speed and mobility as the main purpose, thus reducing distances. The pattern of the cities has been developed as huge horizontal corridors of traffic lanes in different layers, leaving huge islands of housing, business or cultural areas sharply separated. It is not an ideal pattern for accessibility and mobility for old people. In fact, the design of our physical environment has been aimed at people aged between 20 and 40, preferably male, right handed and with a certain level of technical skills.

The industry and commercial world has already been preparing for the elderly people as consumers of a vast potential. Designers should view the elderly not simply as consumers but as users. We should be planning or re-planning our environment for a better living for us and also for the aged people. Going back to the 85-year old lady before the sliding doors. I should mention that she was not there to buy something, but she visited a doctor in the shopping mall for a blood test. When this mall was built, the doctors also moved into it, and patients have to go there by car. She has given up her driving license, so she depends on somebody to take her there. When she was 40, she lived in a neighborhood where the doctor had his clinic 200 meters away, the daily shops, suchas a grocery, dairy, etc. were around the corner. The doctor would visit old or ill people, shop owners would deliver the goods to the door. She is not complaining, she rather thinks she has a good life. But sometimes, she feels that the world has become too complicated, and she is worried about the future. This old lady is my own mother. Thank you.

Ohya: You spoke about users instead of consumers, which I totally agree with. In the past in Japan also, everything was made of the size of the human body. While seeking higher convenience, more affluent life, we came too far. I feel that I am living today wondering if there was any chance for us to







セッション A 「地球課題へ挑戦するデザイン」

パネリスト: アレキサンダー・マヌー

マリアンヌ・フランドセン

石山 修武 コーディネーター: 大宅 映子

には病気になり、事故にあい、年をとり (最近では非常に高齢化が進んでいます) そういうときに障害を感じる、それが人 生の10分の1の期間にあたるのです。

また今世紀の都市開発が、早さと移動性を主な目的にしたので、距離は縮まりました。しかし都市開発のパターンを見ますと都市はいくつもの層になって、水平方向に延びる交通路の巨大な回廊となり、住宅地やビジネス区域、文化的な区域がまるで島のようにおのおの隔離されたパターンは、老人のアクセスのし易さ、移動のし易さには決して理想的とはいえません。実際我々の物理的な環境のデザインが念頭に置いていたのが20歳から40歳までの、右利きの男性で、しかもある程度の技術的な能力を持つ人が望まれていました。

将来の年齢層の分布が、全体の約3分の2が65歳以上になるという統計予測を受けて、業界や商業の世界では既にその準備を始めています。デザイナーはこの高齢者をたんに消費者として捉えるのではなく、ユーザーとして捉え、高齢者にとってもよりよい生活を可能にする環境の計画、または再計画を真剣に検討する必要があります。

先ほどの85歳のおばあさんの自動ドア の話に戻りますが、この女性がショッピ ングセンターへ行ったのは何も買い物を するためではありませんでした。ショッ ピングモールに移転したクリニックを訪 ねて、血液検査を受けるためだったので す。移転後は車でしか行けなくなり、彼 女は運転免許を放棄したので、誰かにつ れていってもらう必要がありました。こ の女性が40歳の時には家から200メート ル離れたところにこのクリニックがあ り、日用雑貨や乳製品を売る店もすぐ近 くにありました。また老人や病人の処に は、医者が往診に来てくれましたし、店 から商品の配達もしていました。このお ばあさんは決して文句は言っていませ ん。自分は良い人生を送っていると思っ ています。ですけれども、時々世の中が 少し複雑になりすぎたと感じて、将来に

不安を覚えています。このおばあさんというのは実は私の母のことなのです。ご 静聴ありがとうございました。

大宅:消費者でなくユーザーというところは私も同じ考えです。かつては人間サイズの丁度よい形だったのが、もっと便利にもっと豊かにと思っている間にこういう状況になってしまったのだな、どこかでブレーキがかけられなかったのだろうと思いつつ、今を生きている感じがします。最後に、石山さんに、「難民のためのデザイン」をお願いします。

避難民のための医療のデザイン、携帯道 具から仮設施設まで

石山 修武: 私の発表は3つの項目に分かれており、最初が、現代社会がデザインに求めている多様性について、具体的な例を引いて話し、次に、日本デザイン機構の活動を一部紹介をします。最後にDesign for the Worldへのプロジェクトを1つ具体的に提案する構成で話します。

最初のスライドは日本の北海道の十勝です。ここで依頼された仕事が、目の見えない人に美術を体験してもらう為に美術館を作ってくれということでした。私の依頼主は北海道点字図書館、全く目の見えない人に、いろんなものを体で感じてもらう、或いは頭で認識してもらう活動をこれまでずっと15年ほど続けています。それに対してデザイナーも建築家も何のフォローもできなかった現実があっ



Mr. Osamu Ishiyama

たと思います。目の見えない子供は当然 雪の白さも、風で木がそよぐことも知ら ない。それをどうにかして体験させたい、 解らせたいというのがこの点字図書館の 活動です。川の水も見た事がありません。 自然の色々な素材、水、風、空気 、緑 を何とか頭の中にイメージとして作り出 すにはどうしたらいいかと延々と考えて いるグループです。目の見えない人に山 を見てもらう、これは正直に言うと出来 ません。日本の先住民で、非常に沢山の 神話を作り出す能力を持った人達、アイ ヌ民族の神話を使って、目に見えるデザ インを使うのではなく、徹底的に話して 聞いてもらうための道具としてデザイン を考えたいと思いました。重度のハンデ ィキャップの車椅子の人にはどうしても 風を切って走りたい、風というものが知 りたいという気持があるようです。その ために150メートルの、車椅子で走れる ジェットコースターをデザインしまし た。それから色々な匂いや、花や土や水 を体験できる庭が散在しております。本 当に目の見えない人に山を見せられるか どうかはまた1つ大きい疑問ですが、ク ライアントつまり社会がデザイナーに、 私に要求している問題がどうもデザイナ ーよりも先んじて広がり始めているとい う非常に強い印象を受けました。

次にカンボジアのプノンペンで、日本 デザイン機構と私の大学で進めている協 同プロジェクトとして、広島の市民と一 緒に「広島ハウス」を建てています。広



Temporary toilets using corrugated cardboard

Session A Descover, Define, Design: A New Methodology for Proactive Design

Panelist: Alexander Manu

Marianne Frandesen Osamu Ishiyama

Coordinator: Eiko Ohya

have put the brakes on the development.

Finally, Mr. Osamu Ishiyama presents his "Design for Refugees."

Medical Kits for Refugees - Portable Kits and Temporary Structures

Osamu Ishiyama: I will divide my talk into three parts:

1) diversity in design required in the contemporary society,

2) reports on some of the activities of the Japan Institute of Design, and 3) proposal to Design for the World.

The first slide shows the landscape of Tokachi in Hokkaido. Here, I was assigned to design an art museum for the visually disabled people, where they can appreciate art works. The client had been managing the Hokkaido Library of Braille-written Books for the past 15 years, and trying to help the blind sense or perceive many things and phenomena with their senses. No designers or architects have followed to help his attempts. Blind children do not know the white of snow, trees waving to the blowing wind. So the museum wants them to sense by all means. The staff of the museum are a group of people who are tirelessly thinking about how to create the images of river, water, wind, air, green and so on in the mind of the blind. Of course, you cannot make the blind see the mountain. I devised to use mythologies of the Ainu tribe to be told. The Ainu are indigenous people of Hokkaido who are talented in making mythologies. People in wheelchairs seem to have a desire to run through the wind, so I designed a 150meter-long ride on which they can run in a wheelchair. There will be gardens scattered here and there where people can smell different fragrances, touch flowers, soil and water. It is still a big question mark if I can help the blind see the mountains. But through this assignment, I realized that the clients have much keener insight into problems than designers.

My second subject is the Hiroshima House that is being jointly promoted by the Japan Institute of Design (JD) and my university in Pnompenh, Cambodia. Both cities have a shared sorrow. Hence the citizens of Hiroshima decided to donate a school and an art gallery where people can consider about peace. Now, the construction is going on in Penompenh. It is

located in the compound of the largest Buddhist Temple Unalom in Cambodia. Volunteers from Hiroshima city, Japanese students and student volunteers of Penompenh Institute of Technology are working on it. At this moment, the woodcraft workshop on the ground floor has been built. For three years from now, we are going to build a small museum of A-bomb explosion on Hiroshima and the Pol Pot War Museum. We will build a hospital in cooperation with the Asian Medical Doctors Association (AMDA). This Temple accommodates about 5000 orphans. We will build living quarters on the third floor for some of them to live in. So, this will be a multi-purpose building for school, gallery, rest house, dormitory and library. JD wants to manage these facilities with flexibility.

The final subject is my proposal for Design for the World. Some months ago, I visited Sao Paulo, Brazil by the arrangement of JD. What is happening in Sao Paulo is the hollowing of the downtown districts. Many older buildings in these districts are being vacated to move to new buildings elsewhere. I said older buildings, but they are actually modern buildings only between 20 and 30 years old. Students of Sao Paulo University intend to reform them to allow the poor to live in. Their plan is motivated from humanism. And from a design point of view, such a project to reform modern architectural pieces and modern city centers into something else is very interesting. A building deteriorates quickly when it is not used. How can we turn office buildings to apartment houses? This requires a new design system. And so far, design capability has not been manifested in this field. Since this would be duplicated in other cities, it can be a common project for Design for the World. We need quite high skill levels, because it is much more difficult and complicated than designing a new building. But it is challenging and interesting too.

Questions from the floor.

Tomoki Kohchi: Each community has its own method according to the climate and culture. So, I think we should develop relations among the environment, people, tools and systems at each community level.





セッション A「地球課題へ挑戦するデザイン」

アレキサンダー・マヌー パネリスト:

マリアンヌ・フランドセン

石山 修武 コーディネーター: 大宅 映子

島とカンボジアのプノンペンは、悲劇性 に関し非常に共通するものがあります。 ですので広島市民は、プノンペンに何と か平和を深く考えるための学校とギャラ リーを建てたいと考え、今、建設が進ん でおります。カンボジア最大の仏教寺院 ウーナロムの境内に広島市民、日本の学 生、カンボジのアプノンペン工科大学の 学生たちのボランティアでこの建設は進 められています。今一階の木工所まで出 来ていて、この上にこれから三年がかり で、広島の原爆資料館、プノンペンにポ ル・ポトの戦争博物館がありますが、出 来ればそれも同時にここに作ろうと、ま たアジア医師連絡協議会 (AMDA) と連 携して病院も作りたい。それから、今こ の寺院は5千人の孤児を預かって教育し ていますので、その孤児の一部に3階に 住んでもらおうと。学校、ギャラリー、 休養施設、宿舎、図書館でもある、ルー ズな機能の建物にと、計画を日本デザイ ン機構で進めています。

最後は、先日、日本デザイン機構のア レンジでブラジルのサンパウロに行って 来ました。今サンパウロでは都市の真ん 中がほとんど空きビル状態になっており ます。ブラジルは土地が安いため、せい ぜい2、30年しか使っていないモダンな 近代建築が皆捨てられて、都市の真ん中 に空き地が出来ている。それをサンパウ ロ大学の学生が何とか貧しい人々の住居 として再生、使い直せないかと考えてい ます。それはヒューマニズムをベースに しても当然のことですけれどももう一 つ、デザインとしても、近代的建築、近 代的な都市を他のものに使い直していく ことは、これから大変興味深い課題とし て現れるのではないか。使われない建築



はすぐ滅び、廃墟になってしまいます。 どうやってオフィスビルを住居に使い直 していくか、そのためには新しいデザイ ンのシステムが必要で、これは現代のど この都市でも起こりうる可能性がある。 今の段階ではデザインの力はどこにも発 揮されていない、まさにこれこそ我々デ ザイナーの力があるとすれば使われるべ きだろうと思います。収入がゼロの人々 がここに住み着いている。この人たちに も当然デザインの恩恵は与えられるべき だし、我々に与えられている問題は、か なり高度で、新しいものを作るよりもさ らに複雑で面白く、興味深いと思います。

質疑:

高知 友樹(会場):風土、文化によって 工法、コミュニティは変わり、様々です。 地域に適した環境、人と道具、システム の関わりを各々のレベルで開発してはど うでしょうか。

石山:全くその通りです。しかし前近代、 アジアの近代化以前には戻れない。やは り現代のデザインを使い、技術もある程 度集約して取組むのが今のデザイナーの 役割だと思います。

森江 健二(会場):マスクも当然必要で すが、ごく当たり前の日常で健康に暮ら すためのデザインに、どんな考えで接す るか、マヌーさんに伺いたい。

マヌー:このマスクを着想した時、沢山 の人々が最初非常に感動し興奮しまし た。しかしその後、ちょっと待てよ、こ の問題は優先度は高くない、もっとマク 口な、生活の在り方を見るべきだと。確 かにマスクは1つの小さな対症療法かも しれません。呼吸困難は見ればすぐにわ かります。行動です。地域の要求に対し



感度を高めることが重要です。ミクロの 要求に応えつつマクロも考えるアプロー チが必要でしょう。

篠原 匡(会場):マヌーさん、DWとい う、色々な国際団体が1つになり、垣根 が無くなって、このマスクにどのような メリットが生まれたのか教えて下さい。

マヌー: 具体的で実際的な要望がこのマ スクの場合でした。まさに団体の壁を突 き破りました。まず資金、スポンサーシ ップのパッケージがあります。ビジネス 分野の方々に詳細を伝え、複数のプロジ ェクトに社会的に責任を負う長期的なパ ートナーシップを構築したいと思いま す。

深田 尚彦(会場):私は教師です。今日、 グロスマンさんから非常に面白い定義が ありました。ですが私は、デザインはフ アッション、陶器、家具どれも、「外見 を考えている」と今まで思ってきました。 しかし最近使われるデザインは大変広義 で、単なる外形のみでなく、機能につい てまでも良きものを考えている。これは 画期的な事ですから、ギリシャ、ラテン に基づいて素晴らしい言葉を作ったらい いと思います。

大宅:刺激的な質問と答えとで、かなり 理解が深まったと思います。どうもあり がとうございました。(要約/迫田幸雄)

アレキサンダー・マヌー DW理事/カナダ デザイン事務所アクシス・グループ設立。カナダ文化コミ ュニケーション省のコンサルタント (1991-93年)、王立 カナダ美術院会員、オンタリオ・デザイン協会会長 (1988-92年)。カナダ・デザイン協会理事 (1989-95年)。 ICSID理事(1995年)等。

マリアンヌ・フランドセン DW理事/デンマーク 国際インテリアデザイナー連盟(IFI)会長、デンマーク・ デザイン協会副会長 (1995~97年)、マーストリヒト、ヨ -ロッパデザイン賞協議会会員(1995-97年)、デンマー ク通産省デザイン振興委員(1996-98年)、ミラノ、コン パッソ・ド・オーロ審査委員長(1998年)、大阪、国際デ ザインコンペティション審査委員(1999年)等。

石山 修武 日本デザイン機構理事 建築家 早稲田大学理工学部建築学科教授。「伊豆の長八美術館」で 第10回吉田五十八賞(1985年)。「宮城県立リアス・アー ク美術館 | で日本建築学会賞(1995年)。著書に『住宅病 はなおらない』『世界一のまちづくりだ』他等。

大宅 映子 日本デザイン機構理事 ジャーナリスト 日本インフォメーション・システムズ (NIS) 代表取締役社 長。NISでは文化イベントの企画プロデュースのかたわら、 1978年より始めたマスコミ活動で、国際問題・国内政治 経済から食文化・子育てまで守備範囲広く活躍中。行政改 革委員会、衆議院議員選挙区確定委員等を歴任等。

Session A Descover, Define, Design: A New Methodology for Proactive Design

Panelist: Alexander Manu

Marianne Frandesen Osamu Ishiyama

Coordinator: Eiko Ohya

Ishiyama: Exactly. But we cannot return to the level of the pre-modern times, or the level of Asia before modernization. The role of designers is to solve a question using contemporary design techniques.

Kenji Morie: The reusable mask is necessary of course, but how do you approach people's health in daily life setting?

Manu: When I show this mask, many people were moved and excited at first. Soon after that, however, they stopped and thought, "Wait a minute. This haze problem is not that important. We should see from a macroscopic view how we live our daily life. The provision of a mask is only a symptomatic treatment or action to help coughing people from a microscopic viewpoint. We need to take a macroscopic approach while acting to meet microscopic needs.

Tadashi Shinohara: I would like to ask Mr. Manu what was the advantage you found in the interdisciplinary organization Design for the World in your mask project.

Manu: Finance, or sponsorship packages for one thing is of great value of breaking the borders between various organizations. I would like to work in the future to tell our project in detail to business people, and build up sustainable partnerships with them as entities to share social responsibilities

Naohiko Fukada: I am a school teacher. I found Mr. Grossman's definition very interesting. I have thought that designers are thinking about how to show things, whether it is fashion, ceramic or furniture design. But I learned that design is used to cover wider meanings today. It contains outlooks, functions and so on. Since the term "design" is hackneyed, how about coining a new term deriving from Greek or Latin.



Ohya: Thank you very much for your provocative questions and comments. They helped our understanding. Thank you very much. (Summarized / Yukio Sakoda)

Alexander Manu: Board Member of DW / Canada

Founded Axis Group full service design consultancy (1980). Consultant on design strategy for the Canadian Ministry of Culture and Communications (1991-93), Academician of the Royal Canadian Academy of Arts (1994), President of the Association of Chartered Industrial Designers of Ontario (1988-1992), Director of the Association of Canadian Industrial Designers (1989-1995), Director of ICSID (1995).

Marianne Frandsen: Board Member of DW / Denmark

President of International Federation of Interior Architects / Designers (IFI). Vice President of Multidisciplined Design Association of Designers in Denmark (1995-1997), Appointed member of the Committee to promote use of design, Danish Ministry of Industry and Trade (1996-98), Jury Member, President of the Jury of Compazzo d'Oro, Milan, Italy (1998), Jury Member of the International Design Competition in Osaka, Japan (1999).

Osamu Ishiyama: Board Member of Japan Institute of Design

Architect, Prof. of School of Science and Engineering, Department of Architecture, Waseda University. Awards:Tenth Isohachi Yosida Award for "Museum of Chohachi of izu" (1995), Award of Japan Association of Architecture for "Miyagi Prefectural Museum of Rias and Ard" (1995). Writing: "Frustration for housing is never cured", "It is development of the world's nuber one town", and others.

Eiko Ohya: Board Member of Japan Institute of Design, Journalist.

Founded and president of Japan Information Systems (NIS) President (1969), At NIS, besides planning and producing cultural events, started working on madia from 1978, has been active in broad range from international issue, domestic socio-econo problems, food culture to child care. Successively appointed to the Member of Sub Committee for Administrative Reform and the Member of House of Representative Electoral Constituency Demarcation Committee.





セッション B 「地球問題を解決するデザイン」

パネリスト: デス・ロウブシャー フリッツ・フレンクラー

フリッツ・フレンクラー ギィ・ショッカート

鴨志田 厚子 コーディネーター: 水野 誠一

水野 誠一: それではセッションB「地球問題を解決するデザイン」に入ります。いろいろな分野のパネリストを各国から招くことができました。それぞれの方にプレゼンテーションをしていただき、続いてディスカッションに入っていきたいと思います。



Mr. Seiichi Mizuno

健康のためのデザイン/感染症に挑む注 射器からの展開

デス・ロウブシャー:ここで私は使いきり型の安全注射器のプロジェクトを紹介します。世界中のエイズ感染者の40%は、汚染された注射針が感染源とされています。そのため、先進国では注射針交換プログラムがエイズ予防の一番の戦略となっています。実際には莫大な費用が掛かっています。



Mr. Des Laubscher

より安価で安全な注射器の開発・普及を考えてきました。患者への感染予防に加え、操作ミスによる医療従事者への感染防止も考慮しています。そのような観点から考案したのがこの注射器です。自動ロック型で、注射針はケースの中に収まり、一度使用したら後は捨てるしかありません。これにより、再利用できないので、感染のリスクを大きく下げられます。また、針交換が不要のためヘルスケアのコストも下げらます。企業スポンサーを募って配布する予定ですので、注射器1個あたりのコストも下げられます。

想定される需要者は、エイズ患者や薬物中毒者など、北米で1700万人、アフリカで2000万人、欧州で2500万人。現在のところ合計で6200万人ですが、年々増加する見通しです。これはかなりの人数といってよいでしょう。それに対して現在、先進国では、様々なNGOが注射針交換プログラムを運営しています。パリのある注射針交換センターでは1週間に21,000の注射針を交換しています。パリでは30のプログラムが常時動いています。ある麻薬撲滅NGOの調査によると、世界でそのような組織が1200あるということです。

私たちは、こうした組織を通じて安全 注射器を配布していきたいと考えていま す。このプロジェクトの最初のパートナ ー候補はWHOです。とりあえず1週間に 22万ユニットを配布し、最初の1年間に は1千万ユニットを配布していくつもり





です。

午前中に紹介された計算によると、このプロジェクトのスコアは4800点で、「即時実施」の分類になります。6つの企業にスポンサーを働きかけています。35万ドルずつ拠出いただくことになるでしょう。皆様のあらゆるかたちでの参加を歓迎いたします。

大交流時代のトランスポーテーション・ ツーリズムデザインの展望

フリッツ・フレンクラー:トランスポーテーションのデザインには、システムとしてのデザインが必要となります。ある車を開発しても、道路が無かったら、駐車場が無かったら、どうなるでしょう。車があっても意味がありません、あるいは極めて短期間しか効用が持続しないことは、容易にお分りいただけるでしょう。

車の産業は、世界中で最も洗練された 産業といえます。高度な技術や高い品質 管理を集めた工場はその典型です。けれ どもシステムへの投下資本も膨大なもの があります。車そのもの以外にも、道路 やガソリンスタンドなどの建設・整備に も相当の力が注がれています。もちろん、 すべてが民間企業によるわけではありま せんが。

一方で、公共のトランスポーテーションはどうかというと、とても同じようには捉えられません。ドイツの例でいうと、ドイツの車産業は世界有数ですが、公共の輸送サービスは40年間ほとんど変化がありません。競争もなかったからということでしょう。渋滞のような大問題もなかったので、工夫もされてこなかったのが実情です。

ただここ5年の間に、ようやくいくつか見るべき取り組みがなされるようになりました。車に流れていった利用者を、鉄道やバスに取り戻そうとした試みです。渋滞もなく、エネルギー効率にも優れているのは明らかです。

6年前にドイツ政府主導でコーポレートデザインが着手されました。美しい古い建物の改装、コミュニケーションの場

Session B From World Problems to Design Solutions

Panelist: Des Laubscher

Fritz Frenkler Guy Schockaert Atuko Kamoshida

Coordinator: Seiichi Mizuno

Mizuno: We have invited panel speakers from various fields. First, we would like to listen to their presentations, and after that, we will have discussions.

Design for Health - A syringe challenging infectious diseases

Des Lobscher: I would like to introduce the Single Use Syringe Project. The source of infection of about 40 percent of the HIV infected is said to be multiple use of contaminated needles. In industrialized countries, the needle exchange program is the most effective way to prevent HIV infection. As it is guite costly, we have been trying to develop a cheaper and safer syringe. It will prevent not only patients but medical personnel from being infected. This is a syringe that I designed. It is self-locking. Once used, the needle is locked in a safety sheath, thereby preventing the infection of medical personnel through accidental puncturing. A needle exchange is not necessary, therefore, health care cost is also lowered. We will find sponsor companies to distribute these so that cost per syringe will be reduced.

Potential users are HIV/AIDS patients and drug users totaling 62 million, 17 million in North America, 20 million in Africa and 25 million in Europe. The number is expected to increase. This is quite a large body of users. In industrialized countries, many NGOs are engaged in needle exchange programs. In Paris, 30 such programs are active on a permanent basis. A needle exchange center in Paris exchanges 21,000 needles a week. According to a survey by the Global Coalition for Alternatives to the Drug War, there are over 1200 organizations providing exchange services.

We would like to distribute the Safety Syringe through the network of these NGOs. WHO is our natural partner. Initially, we intend to provide 220,000 units per week, and 10 million units in the first year.

According to the calculation we made in the morning, the score of this project is 4800 points which implies that it is under the class of projects that should be "immediately implemented." We are now requesting 6 companies for sponsorship. Their contribution is expected to be US\$350,000 per company. I invite you all to take part in this project in all possible ways.

Transportation and Tourism Design in a Mass Exchange Era.

Fritz Frenkler: For transportation design, a system design is required. Even if we develop a car, it means nothing if roads are rough and if there is no gas station, or parking lot. The car cannot be used in a sustainable manner. Automobile manufacturing is a sophisticated industry requiring high technologies and intensive quality control. An enormous amount of fund is also invested in the transportation system, including roads and gas stations by both the public and private sectors.

The public transport system cannot be compared to automobile manufacturing. Germany is a world leader in automobile manufacturing, but its public transport systems have remained at the same level as 40 years before. One reason for this may be that there has been no major competition among the different services. As there were no problems with traffic jams, they were reluctant to make improvements.

But for the past five vears, there were some notable moves to draw back automobile users to trains and buses. It is clear that railway transport is free from traffic iams and better in energy efficiency.

Six years ago, the corporate design renovation for railways was initiated by the government. Beautiful but old station buildings were refurbished, Mr. Fritz Frenkler



some station houses were reformed into places for communication by housing meeting rooms, and other station buildings were transferred to the underground to allow use of the surface land for other purposes. Ticket vending machines and kiosk sales stands were renewed, service counters were installed, lobbies were built where passengers can relax over a cup of coffee, child care centers or shops were attached to station buildings, and new types of vehicles were introduced. From a place for arrival and departure of trains, stations are now being turned into places of communication for users, or a base for their daily life.

Train transport service itself is dramatically changed to cater to users' needs. To meet users' desires to use a car from "door to door," a train that can carry cars onboard is going to be introduced. Rent-a-car services have started at stations. Bicycle parking areas are being built near stations, and trains onto which you can bring your bicycle are being introduced. Transit changes from train to public bus service are better timed. Train services widened their range from rapid passenger trains, moderately slow cargo trains, to short-distance commuter train and long-distance night trains.

About two months from now, the capital of Germany will move from Bonn to Berlin. There will be an unprecedented movement of people and materials between the two cities. The corporate design changes have been made with this prospective in mind. Anyway, design of not only vehicles but the entire transportation system was a major factor for turning a public railway into a more attractive and convenient transportation system for individuals.

Rights to Play, Education and Creative Environment

Guy Schockaert: We have rights to play, prosperity, freedom, settlement, education etc. On the other hand, we have obligations to respect each other beyond our differences in race, religion, or ethnic background. Therefore, we have no place where we can be selfish.

The right to play, or to have creativity can be sought through design. Design might be a special tool in a sense, a society can use this tool to provide children with opportunities to play. As the age of information progresses, person-to-person con-

セッション B 「地球問題を解決するデザイン」

パネリスト: デス・ロウブシャー フリッツ・フレンクラー

ギィ・ショッカート

鴨志田 厚子 コーディネーター: 水野 誠一

としての鉄道駅の展開(会議室併設等)、 駅の地下化による土地の有効利用、券売 機やキオスクのリフレッシュ、サービス カウンターの設置、コーヒーを飲んだり もできるくつろげるロビー、駅への幼稚 園や商業施設の併設、新型の鉄道車両の 導入など。駅は鉄道発着だけでなく、利 用者のコミュニケーションの場に、ある いは生活の一つの拠点に変化しつつあり ます。

また単に輸送するのではなく、輸送サ ービスも利用者ニーズにあわせてシステ マチックに展開されています。ドア・ツ - ・ドアの考えから車載列車の導入や駅 でのレンタカーサービス、駅周辺への駐 輪場の設置や自転車の持ち込める車両の 導入、公共バスとのスムーズな乗り換え など。アウトバーンのように非常に高速 の列車や比較的低速の貨物列車、短距離 用の通勤列車や長距離に適した夜行列車 など、種類も豊富になってきました。

ドイツでは、これから2ヶ月かけて、首 都がボンからベルリンに移ります。両都 市のあいだでは、いままでに考えられな いほどの人や物が行き来することになり ます。そんなことも念頭に置いてのコー ポレートデザインであったようにも思い ます。いずれにせよ、車両や車そのもの のデザインということでなく、トランス ポーテーションというシステムとしての デザインを行ってきたことが、公共の鉄 道をより魅力的で利便性の高いものへと 変化させた大きな要因と言えるでしょう。

遊びの権利と教育/未来をつくる創造環境 ギィ・ショッカート: 私たちは、遊ぶ権 利、繁栄の権利、自由の権利、居住の権 利、教育の権利などを持っています。一 方で、私たちには、人種、宗教、民族を 越えて互いに尊重しあう義務がありま す。それゆえ、世界広しといえど、利己 主義のための場所はありません。

遊びの権利、創造性をもつことは、デ ザインを通じて達せられます。デザイン はある意味で特殊なツールですが、社会 がそのツールを使えば、遊びの機会を例 外なく提供することが可能になります。



Mr. Guy Schockaert

これから情報化が進んでいくと、人と人 との間の接触が重視される時代になって きます。子供は将来のために育てます。 そのため、すべての子供たちによりよい 将来を提供すべく、大人が責任ある役割 を社会的に果たしていかなければなりま せん。両親だけではなく、正式な制度に のみ依存するのでもなく、社会全体とし て、子供たちに創造性を発達させる様々 な機会をつくっていくということです。 現在、社会経済、政治的な理由によって、 8億人以上の子供たちが、遊びの機会を 許されていません。遊びの権利のプロジ ェクトの目的は、持続可能な遊びのツー ルと環境を通じて子供たちを育てること です。遊びは成長を円滑に行うためたい へん重要な要素と考えています。大人に 成熟するに至り遊びを通じて学んだ行動 が根付いていくことになります。遊びは 学びであり、子供にとって生活そのもの でもあるわけです。また遊びは安全の尺 度でもあり、遊びを通じて安全な空間を 経験的に知っていくことにもなります。

プロジェクトでは、シンプルで簡単な 遊びのツールを開発します。材料は簡単 に入手できる、長持ちするものを使いま す。遊びの道具には、簡単に図解した説 明カードを付けます。この説明カードは、 UNICEF(国連国際児童緊急基金)ない し関係団体を通じて世界各地に無料で配 布します。

まずは経済的・社会的な不利益を被っ

ている子供たち、難民の子供たちやスト リートチルドレンなどを対象にしていき たいと考えています。今後、このような シンポジウムなどを通じて、内容広め、 普及させていきたいと思っております。

ユニバーサルデザインの国際ガイドライ ンへの展望

鴨志田 厚子:私がユニバーサルデザイ ン、共用品の運動を始めて8~9年たちま す。欧米諸国に遅れた高齢者や障害者へ の配慮の視点を考えてみようと始めまし た。本日は、その成果を5つ持ってまい りました。

まず、シャンプーとリンスのボトルで す。前者には横にギザギザがついて、持 てば識別できる仕組みです。視覚障害者 のために開発しましたが、実際には誰に とっても便利、洗髪時には目をつぶって いて見えませんので。いまでは共用品の 代表格になっています。

次に、テレホンカードです。入れる側 の左手前に円弧の切り込みがあり、方向 や表裏を間違いなく公衆電話に差し込む のに便利です。これも視覚障害者のため に考えられたものですが、いまでは幅広 く一般に使われています。

そして、携帯電話で着信時にブルブル と機器が震えるタイプのもの。聴覚障害 者を想定していましたが、一般にもよく 売れました。サラリーマンが終電で乗り 過ごさないよう、胸ポケットに入れて利



Session B From World Problems to Design Solutions

Panelist: Des Laubscher

Fritz Frenkler
Guy Schockaert
Atuko Kamoshida

Coordinator: Seiichi Mizuno





tact will become more important. We must raise our children to be prepared for the future. Not only parents and public institutions but the whole community must provide children with various opportunities to develop their creativity.

Over 800 million children around the world are denied the opportunity to fully develop through play for economic, political and social reasons. The Right to Play

Project is intended to ensure the means to nurture, improve, and mature children through the provision of sustainable play implements and environments. We believe that Play is the element which facilitates growth, establishing behavioral characteristics that transcend into adulthood. Play is learning. For the child, play is Life in all its forms. Play is also a measure of safety. It assures children that a safe space exists within their environment, a space in which life as they know it can be fully exercised.

The purpose of this project is to conceptualize, develop simple, self-made play implements made of sustainable, ready to find materials. Illustrations and instructional cards are attached to these implements. The instruction cards will be distributed free of charge to community-based groups around the world through UNICEF.

As our first target groups, we will consider children affected by economic or social disadvantages, refugees and displaced children, children living and working on the streets, and physically and mentally handicapped children. Through attending meetings such as this, we would like to improve the contents, and spread our project.

International Guidelines of Universal Design

Atsuko Kamoshida: I started universal design for industrial

products about 10 years ago. I began this movement to consider industrial design from the perspective of the convenience of elderly persons and disabled people. This is a field in which Japan was lagging far behind other western industrialized countries. I brought five results today.

First, shampoo and rinse bottles. They have notches of different shapes on one side. If you hold one, you can tell which one is shampoo or rinse. I developed these packages for visually disabled people, but they

are convenient for all, because while you're washing your hair, you often close your eyes. These are representative common-to-all goods.

Second is a telephone card. An arc is cut at the left hand side for the side you are supposed to insert into the slot of the telephone. You can insert it without mistake. This was also developed for the visually disabled, but now it is widely used.

Third is a mobile telephone. When a call is received, the apparatus vibrates. This was meant for people with a hearing disability, but it sells well to general consumers. A salaried man who is taking the last train home is using this telephone putting it in his breast pocket so that he won't oversleep in the train. Such use was beyond my imagination.

Fourth is a bottle of cosmetic lotion. If you push the body with one hand, lotion comes soaking into the cotton, and apply it to wipe out your face. This was considered for people who have disability on one hand. But it is conveniently used by mothers while holding their babies. The bottle is also fail-safe against falling.

The last one is a SONY radio-cassette. It has large handling buttons. Recent electric apparatuses with their small-lettered touch keys and LCD panel are not friendly to the elderly and visually impaired people. But this one has large switch buttons that you can identify with your finger tips, and the red light displays clearly what to choose from among AM, FM, TV, etc. For people with hearing difficulty, frequency can be selected. Many people are amazed that so many indicators have been incorporated on this small space.

I had worked for a civil organization for 8 years, and was involved first in product development, and then urban development. While doing so, I realized product manufacturers do not know much about their customers, for example, the elderly. Designers may consider the convenience of users, but often, their intentions are not meeting users' needs. So I conveyed consumers' needs to them, and proposed solutions. When you get old, your functions are generally lowered. So, you need to mobilize different senses, by seeing, hearing and touching to be sure to use a tool. A product that allows such multiple confirmation is a favorable product.

I brought these shampoo and rinse bottles and telephone card to the ISO General Assembly and proposed that criteria should be set. Then a working group was formed and Japan was appointed as its chair. So far, ISO has made various rules for manufacturers, but this working group is considering criteria from the users' point of view. I would like to propose guidelines to make things easier to look at and use.





セッション B「地球問題を解決するデザイン」

パネリスト: デス・ロウブシャー フリッツ・フレンクラー

ブリッツ・ブレングラー ギィ・ショッカート

鴨志田 厚子 コーディネーター: 水野 誠一

用しているとのこと。思わぬところで役立っている例です。

4つ目は、この化粧品の瓶です。「ふき取り化粧水」といっていますが、片手で押すだけで、コットンにしみ込んできます。片手の不自由な方々を対象に考えたのですが、赤ちゃんを抱いてる人などにも便利なもので、しかも倒れても中味がこぼれないよう工夫されています。

最後が、ソニーのラジカセです。スイッチ類のツマミが大きいのが特徴です。タッチキーや液晶パネルでは見えにくいし、触ってもわからない。視力の弱い方やお年寄りには使いづらい。それに対して、スイッチはハッキリと手応えがあり、AM、FM、TVは赤いランプでハッキリ見えて分かりやすい。耳の遠い方には聴力に合わせて周波数が選べるよう配慮されている。よくこれだけの配慮を盛り込んだものだと感心もさせられます。

市民団体で8年間、はじめは製品開発、そしてまちづくりへと、活動してきましたが、開発側は例えばお年寄りの実態をあまりにも知らないんですね。だから設計者が配慮したつもりでもトンチンカンなものが結構ある。だから、正しい情報を伝える、解決案も提案するということをやってきました。高齢になると、あちこちで機能低下がおきるので、複数の感覚で確認できるようなかたちが望ましい。目で見て、耳で聞いて、手で触ってという3つぐらいの感覚で確認できるのが、安心感のある製品ということになります。

この前、シャンプー・リンスやテレホンカードなどをもって、ISOの総会に基準づくりを提案したところ、共用品のワーキンググループが結成され、日本が議長国になりました。いままでISOは、物をつくる側の視点が多かったけれど、今回は使う側からのルールづくりであり、何とか見やすい、使いやすいガイドラインを提案していきたいと思っています。

さて、ユニバーサルデザインといって も、量産の中での対応で、個々人にぴっ たりあうというわけにはなかなかまいり ません。今後は、ユニバーサルデザイン をベースに個々人にあわせた調整のできるような技術やセンスを備えた人材や職能の構築も課題であると考えています。 そういったことも引き続き検討していきたいと思っています。

知識の時代から知恵の時代へ/ホロマー ケティングの展開

水野:パネリストの皆様からいろいろなお話をうかがいました。それらを一つに括る手がかりを試みに提示してみようと思います。20世紀は知識の時代でありましたが、21世紀は知恵の時代だと思います。

私の専門であるマーケティングということで話をすると、いままでのマーケティングは企業経営のためのマネジリアルマーケティングであったと思います。それに対して、今後は社会改革を推進するソーシャルマーケティングという新しい極が見えてきます。両極の間には、一方で人間の精神とか肉体とかに密着したミクロマーケティングがあり、他方で地球環境を視野にいれたマクロマーケティングの軸が形成されます。

そういった座標の広がりのなかで、20世紀には理性、知性、感性といった要素がそれぞれに重視されましたが、近年それらの集大成である知恵の重要性が増していると思います。そのような動向を踏まえ、総合化されたマーケティング(私はホロマーケティングと呼んでいますが)というものがこれからは必要になってきます。

今日の話に照らすと、重要なのは単体 のデザインではなく、システムのデザイ ンであるということに重なります。身近 な例では携帯電話が典型的です。日本や



欧米ではすごい勢いで普及しつつありますが、端末はただ同然で売られているがごとく、プロダクトとしてのデザインに殆ど意味が無くなっています。全体のシステムやネットワークが携帯電話の価値を支えています。ホロマーケティングに対してホロデザインといってもよいでしょう。いかにシステム全体を総合的にデザインしていくかが重要な課題です。

そうしたことも勘案しながら考えると、Design for the Worldのプロジェクトは、いずれもデザインを広く捉えており、大きな社会的キャンペーンでもあり、デザインのこれからを示唆するものであり、日本としても、それらへの参加を通じて、世界に貢献するとともに、日本の社会改革に向けて大いに学んでいく必要のあるものと思います。皆様の積極的なご参加を期待いたします。 (要約/黒田宏治)

デス・ロウブシャー DW 理事/南アフリカ インテリア・建築デザイナー。キューブ・デザイン事務所 設立:ホテル・レジャー施設・住宅・事務所・展示等のデ ザイン活動を行う(1977年)。南アフリカ最大のデザイン 事務所と学校を設立(1987年)。IFI理事、次期会長。南ア 最大のデザイン事務所インタースタジオ顧問等。

フリッツ・フレンクラー DW 理事/ドイツ フロッグデザイン・ドイツ、フロッグデザインUSAのデザインマネージャー、フロッグデザイン・アジア社長を経てドイツ、ヴィーゲ社社長(1992年)。ICSID理事(1995年)。 ハノーバー、インダストリアルデザイン・フォーラム理事(1996年)。ブレーメン・デザイナー団体理事(1998年)等。

ギィ・ショッカート DW理事/ベルギー グラフィックデザインスタジオ経営。モーガンローヴァイン大学講師、デザイン審査員多数、ベルギー・グラフィック協会理事(1970-75年)、ベルギー・デザイナー協会副会長(1991年)、ヨーロッパ・デザイナー協会ベルギー代表(1995年)、ICOGRADA会長等。

鴨志田 厚子 日本デザイン機構理事、(財) 共用品推進機構 理事長、静岡デザインセンター長、E&Cプロジェクト(現 共用品推進機構)でユニバーサルデザインを推進等。

水野 誠一 日本デザイン機構理事、東京クリエイティブ理 事長、元西武百貨店社長、西武のCIづくり、新業態開発に取 り組み「ロフト」「シード」館を開業。参議院議員等。



Session B From World Problems to Design Solutions

Panelist: Des Laubscher

Fritz Frenkler Guy Schockaert Atuko Kamoshida

Coordinator: Seiichi Mizuno

In the system of mass production, it is very hard to design things to cater to individual desires and needs exactly. In the future, personnel with adjusting techniques and senses, or an occupational specialty in this direction should be developed on the base of universal design. I would like to take a step forward in this direction.

From an Age of Knowledge to an Age of Wisdom - Holistic Design

Mizuno: After listening to the presentations, if I try to attempt to find words to express what is common to all these presentations, it would be something like "the 20th century was an age of knowledge, and the 21st century will be an age of wisdom."

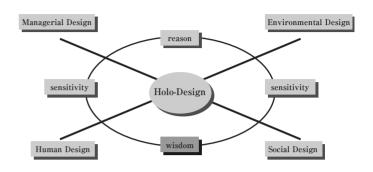
In marketing, in which I major, marketing so far was managerial marketing for managing a company. But in the future, social market aiming to promote social reform will emerge. Between these two polars, I can see an axis of micro-marketing which is closely related with human spirits and physiques and an axis of macro-marking.

In the 20th century, elements such as reason, intelligence or sensitivity have been valued, and in recent years, wisdom synthesizing all these elements is gaining greater importance. To meet this trend, integrated marketing, which I call holomarketing, is increasingly required from now on.

Referring to the presentations today, what is important is not designing a single object but an entire system. A typical one is mobile telephones. They are spreading very quickly in Japan and in other places. Terminal telephones are sold almost for nothing, and the design of mobile telephones as products has lost its meaning. The entire system and network are supporting the values of different mobile telephone services. This can be termed "holo-design," Designing the entire system in a comprehensive manner is important.

With this consideration in mind, the projects by Design for the World view design from a wider perspective, and they are intending to be social campaigns. They suggest what design should direct in the future. Through participating in Design for the World projects, we, Japanese can make contributions to the world, and at the same time, we can learn hints to reform the society of Japan. (Summarized / Kohji Kuroda)

What is "Holo-Design"?



Des Laubcsher: Board Member of DW / South Africa

Interior and architectural designer. Founded Qube Design Consultancy, specializing in hotels and leisure industry, house, office and exhibition design (1977). Co-founded Design Center, a design consultancy and design school in South Africa. A player of South African rugby team "Spring Box." President Elect of IFI, design consultant for Interstudio, one of the largest design companies in South Africa.

Fritz Frenkler: Board Member of DW / Germany

Worked for Frog Design Germany, Design Manager of Frog Design USA, Frog Design Asia, since 1992 President of Wiege Design GmbH. Board Member of ICSID (1995), Board Member of Industrie Forum Hannover (1996), Board Member of DesignLabor Bremerhaven (1998).

Guy Schockaert: Board Member of DW / Belgium

Running graphic design studio, lecturer of the University of Louvain since 1990, member of juries in national and international competitions, Member of the Board of Chambre Belge des Graphistes (1950-75), Vice President of Union des Designers en Belgique since 1991, Belgique Representative by the Bureau of European Designers Associations (1992-1995), President of ICOGRADA.

Atsuko Kamoshida: Board Member of Japan Institute of Design

Director of Shizuoka Design Center, Promoted Universal Design in E & C Project (presently Universal Product Promotion Organization).

Seiichi Mizuno: Board Member of Japan Institute of Design, President of Tokyo Creative.

Former President of Seibu Department Store. Worked on creating corporate identity of Seibu Dept. Store and developed new business and opened [Loft] [SEED] emporiums. Currently Member of House of Councilors.



Temporary Toilets using corrugated cardboard



Examples of the universal design



セッション C「ワールドデザインの行動計画」

パネリスト: ロバート・ブレーク

アントニオ・プッシュ

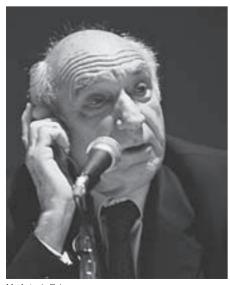
田村 明 コーディネーター: 佐藤 典司

佐藤 典司:これが本当にデザイン関係者 の会議なのだろうかと思うほど多岐にわ たる議論、発展的な問題提起・提案がさ れました。それらをまとめる意味で3人 のパネリストからご意見を頂きたい。

DWは複数の後援者の力を必要とします

アントニオ・プッシュ:多くの企業は独 自の価値観を形成確立させてきました。 その中における基本的価値は企業の永続 性です。長期的に見て、その企業の永続 性は、その企業の貢献がどのように判断 されるかによるところが大きいと思いま す。つまり社会に対して価値を与えたか どうか、そして、その仕事をしている環 境に価値を与えたかどうかです。こうし た価値の重要さを企業がはっきりと理解 していない場合、大切な目的を見逃して しまうというリスクがあります。私共の 周りの社会と環境は、企業に対して国の 経済成長に貢献すると同時に人々にメリ ットを与えることを要求しているので す。例えば製品の高質性と安全性、サー ビスの質と安全性を提供するための研究 をする必要があるのと同時に、社会の安 全保障に対しても経済的に貢献すること が要求されているのです。企業が永続す るためには社会が「その企業が何か貢献 している」という認識を持つことが必要 です。その意味で後援事業や奨励事業が このイメージの向上に役に立ちます。

例えば16世紀のフィレンツェで活躍し



Mr. Antonio Puig

たメディチ家、19世紀スウェーデンのア ルフレッド・ノーベル氏は後援者の典型 的な例です。Mecenas氏はローマ時代の 貴族ですが援助した詩人の名と共に今日 でも名声が伝えられています。

多くの国でデザインは大きな課題で す。既に説明があったように、DWは3つ のデザイン団体の努力の結晶として誕生 しました。つまり何千人というインダス トリアルデザイナー、グラフィックデザ イナー、インテリアデザイナーの声と考 え方が結集していることになります。2 年以上前に、スペインの関係機関によっ てDWの構想が受け入れられ支持されま した。BCD(バルセロナデザインセンタ ー) はスペインの産業省、カタロニア政 府、バルセロナ市と同市の商工会議所と の財政的、後方支援の橋渡し役として役 割を果たしてきました。そして50万米ド ルが寄せられたのです。これを契機とし て、DWは複数の後援者の継続的な力を 得る必要があります。DWは特定の問題 を解決していくために今後貢献をしてい きます。それから必要とされる国におい てデザインを普及しデザインを指導する ことも行います。世界各地に拠点を持つ 多国籍企業はもとより、多くの皆様に後 援者としての役割を果たして頂けるよう 訴えかけて行きます。日本での担当は当 然、栄久庵憲司会長となりますので、ぜ ひご連絡頂きたいと思っております。

人類社会の背景までデザインとして踏み こむ

田村 明:昨日から聞いて印象が深いの は、範囲が非常に広いことです。あらゆ る問題があったのではないかと思うほど です。私自身は30年前に民間から横浜市 に入る時にアーバン・デザインをやろう と決心しました。当時、都市デザインと いう言葉だけはあったのですが行動計画 はありませんでした。行動を通じて示せ ることが重要と考え、様々な立場の人を 集め、それらの人達が旨くデザインを理 解しながら自分たちの環境をよりよくデ ザインしていくことがアーバン・デザイ ンであると考えて組織を作りました。当



Mr. Akira Tamura

時は一般の役所の人達はデザインとかデ ザイナーというと警戒心が先行する時代 でした。しかし「デザイン」という言葉 のインパクトはありました。勿論反発も ある。しかし反発があるぐらいの方が物 ごとは進む、とにかく動くのです。最初 反発があっても結局つぎの次元に行け る。その経験から私はデザインを、そう いう魔術、魔性のある言葉だと思ってい るのです。

このDWの行動というのは正にそうい うインパクトを様々に与えていると思い ます。一般には「デザイナーはあまり社 会性がないのではないか、社会から遊離 して、何か格好いいことばかり言ってい る人種 | と思われがちですが、そうでは ない、物凄く社会的な問題、しかも国際 的で我々にとって深刻な問題まで積極的 に踏み込んでいるのです。

従来、デザインはどちらかというと、 誰かに頼まれてからやるのが一般的でし た。しかしDWのそれは、自分たちが何 か社会的な必要があるということを感じ たところに踏み込んで行く、今社会が 色々な答えを求めている、求めているけ れど答えを出し難いというところに対す る大きなインパクトだと思うのです。先 ほど鴨志田さんからユニバーサルデザイ ンの実例が紹介されましたが、モノのイ ンパクトは非常に強くデザインの凄いと ころです。そういう武器を充分に使いな がら、社会の問題、世界の問題に踏みこ

Session C Action Plan of World Design

Panelist: Robert Blaich

Antonio Puig Akira Tamura

Coordinator: Noriji Sato



Mr. Noriii Sato

Noriji Sato: We heard many discussions and proposals from many angles. I wonder if this symposium is really a meeting of designers. In this session, I would like to have three presentations.

Design for the World needs many sponsors

Antonio Puig: Many companies have developed and established their values.

One of the fundamental values is perpetuity. In the long term, the continuity of a company will depend on how its contribution is judged, whether or not it adds value to the society and the environment in which it operates and to which it is responsible. If a company does not have a clear understanding of this contribution, it may run the risk of losing sight of its major objectives. The society and environment around us demand that companies contribute economic progress to the country and well-being to the population. They must carry out research in order to achieve maximum quality and safety in the products and services provided, with regard to the environment, nature and ecology. At the same time, they must make substantial economic contributions to the public expenditure and social security. If a company is to endure, it is essential for society to be aware that the company is contributing something to it, and for this reason, the image of the company needs to reflect this contribution.

Patronage also helps boost this image: the Medicis in Florence in the 16th century and Alfred Nobel in Sweden in the 19th century are clear examples of patronage which has become part of the history of humankind. Patronage is Mecenat in French, Mecenazgo in Spanish, Mecenatge in Catalan, Mecenatismo in Italian, all of which are derived from Mecenas, a Roman patrician whose memory has become part of the vocabulary of Latin languages.

Design is a major problem in many countries. Design for the World (DW) enjoys the support of the three world organizations from three branches of design: they include thousands of industrial, graphic and interior design professionals. The Barcelona Center of Design has played a catalytic role in linking the Ministry of Industry of Spain, Catalan provincial government, Barcelona municipality, and the Chamber of Commerce of Barcelona and to get their financial and logistic support. We have received \$500,000. With this as a basic fund for the projects, DW needs to receive continuous financial support from a number of patrons. We will contribute to solving specific problems, and help and support the work in the teaching and dissemination of design in countries where it is needed. Companies which have a worldwide presence must be interested in patronage on a worldwide scale.

would like to invite you to act as patrons. Mr. Ekuan is in charge of this matter in Tokyo. Please contact him for information on this matter.

Stepping into the background of human society

Akira Tamura: Listening to the presentations, I realized anew that the range covered by design is so wide. When I changed my job from the private sector to enter Yokohama City civil service 30 years ago, I intended to specialize in urban design. Then, the word "city design" was used but without any concrete plan. I wanted to help more people understand urban design, and I set up an organization inviting people from different backgrounds to discuss how we could improve our living environment. In those days, general government workers had a suspicious feeling about "design" or "designers." But the word "design" had strong impact. There was, naturally, an ill feeling, or opposition against it. But when there is opposition, things go forward. When a project begins in defiance of initial opposition, it often goes well. From this experience, I see "design" to have some magical power.

So far, designers have worked passively when they receive orders from clients. But the direction Design for the World is going to take is different. Designers go into a problem area when they find involvement necessary. Now, the world is seeking solutions to various problems which are hardly solved. Ms. Kamoshida showed examples of universal design. The products she made give a strong impact, and people can see the strength of design. But the range of design is not limited here. The mask against smog, of course, presents a typical product design. When we consider why fires occurred at many locations, why so much smoke spread around, and how we could prevent them from occurring, it will be through social design, or social system design. Although abstract and invisible, the mechanism of the present-day society may have to be questioned. We may have to step into this question in the future. While working to design concrete objects, we should look into the civilization we created but which is causing problems such as environmental issues now. The Action Plan of Design for the World, I hope, will address social issues or global issues. It will be a good beginning for designers to step into the background of societv.



セッション C「ワールドデザインの行動計画」

パネリスト: ロバート・ブレーク

アントニオ・プッシュ

田村 明 コーディネーター:佐藤 典司

んで行くことがDWの行動計画ではないかと思います。

勿論しかしデザインの問題はそれだけ で済むわけではありません。モノと形が デザインの本質ですが、それだけで済む わけではない。例えば煙害マスクですが、 何故あの地にあれだけの火事がおきなけ ればいけないのか、煙が出なければなら ないのか、一体どうしたらいいのかまで 踏み込んでくると、これはソーシャルデ ザインというか、ソーシャルシステムデ ザインです。これはやや抽象的になりま すが、はっきりは目に見えないけれど、 今の社会の仕組みが問題なのです。そこ まで踏み込んでいくことも、これからは あり得るのではないかと思います。デザ イナーの具体性と同時に、環境問題のよ うに、大きな背景となるような我々自身 が作ってきた人類文明、あるいは人類社 会の背景まで、デザインとして踏み込ん でもよいのではないか、そういうきっか けがつくりだされたのだと思っていま す。

DWはプロジェクトベースで動く団体ですロバート・ブレーク:企業や政府、あるいは社会全体にサービスを提供しているデザイナーは、しばしばリーダーの役割を果たします。私達の夢や目的を製品やコミュニケーションや建築を通じて実現させるための、目に見える地図を提供するリーダーになります。DWは社会を向



Mr. Robert Blaich

上させるために実現されるべき夢なので す。私達は開拓者です。道を探ることも 従来から建築家、デザイナー、プランナ ーもそれぞれにやってきました。但し DWがやろうとしていることはデザイナ -達だけでは成し遂げることは不可能で す。これらのアイデアを実りあるものに するには個人、企業、基金、政府とのパ ートナーシップが是非必要です。今日、 紹介されたプロジェクトにはコストがか かります。無料配布する再利用可能な煙 害防止マスクは、試算によると最初の8 ヶ月で250万個を配布するのに、200万ド ルの資金が必要です。より長期的には 7000万個必要です。使い捨て安全注射器 のプロジェクトは200万ドルかかります が導入することによって6200万人の人々 をカバーすることが出来るのです。



私達のDWは、プロジェクトベース、プロジェクトによって動かされる団体です。そのためにはスポンサーが必要です。私達の到達点に共感して頂けるスポンサーがぜひ必要です。DWはプロジェクトをコーディネートし、実際に活動を行うことも支援しますが、私達では出来ないことが沢山あります。成功させるためには皆さんがパートナーとなって下さることが大切なのです。新しい価値のあるプロジェクトを創設するときのパートナー、DWの目的を伝えるためのパートナー、また価値あるプログラムに資金を提供して頂くパートナーも必要です。

栄久庵憲司氏の独創的な想像力から始

まった、この旅は人類社会をより良いも のにするための一生続く長い旅路です。 ぜひご参加下さい。

討論:「人はパンのみに生きるにあらず」 佐藤:田村さんは先ほど「デザインの魔力」と言われました。新しい変革の時代に果たしてデザインに踏み込んでいく力 はありますか。特別に出来ることがあるとすればどんな役割でしょうか。

田村:魔力を持っていると同時に、トー タリティを持っている。今、専門専門に 分かれているデザインが力を合わせたな ら1つの大きな意味を持ってくる。する と新しい意味で魔力というかインパクト を持つ刺激剤になり得ると思う。デザイ ンはトータルに、バサッとかぶせられる 網のような意味あいを持っていて、DW も正にその意味あいを含んでいる。従来 は機械とか機能だけが優先されていた分 化した社会の中に、人間性とかヒューマ ニティ、技術と人間の心の問題、優しさ や美しさ、歴史の問題、そういうものが 全部含まれているということをデザイン なら出来る、そういう魔力を持っている と思うのです。

佐藤: ブレークさんは開拓者という言葉を使われました。それでは2日間討議された環境、人口、医療、難民などの大きなテーマ、問題は、今日この会場にいる聴衆のデザイナーの仕事にどうフィードバックされるとお考えですか。

ブレーク:私の日々そのものが、最近ではDWそのものではないかという気がします。「人はパンのみに生きるにあらず」という言葉があります。先ほど出ました企業は道徳的な観点から貢献をするのか、サバイバルのためかという話にも関係しますが、結局社会的な良心というものが、サバイバルのためにも必要になると思うのです。今、最も私にとって重要なのは、DWを実現すること、そのための一助となるということです。

佐藤:昨日、日本の前国連大使の波多野 さんから、環境問題にしても人口問題に しても国や宗教によって認識が異なるた めに、国連も何をすべきか困っていると

Session C Action Plan of World Design

Panelist: Robert Blaich

Antonio Puig Akira Tamura

Coordinator: Noriji Sato

Design for the World is project-oriented.

Robert Blaich: Designers in the service of corporations, governments and society as a whole are often leaders who provide visual maps that help us realize our dreams and our goals via products, communications and architecture. Design for the World is a dream to be realized for the betterment of society and designers will play a significant role in attaining this vision. We are pathfinders. Finding a way is what architects, designers, planners have done through their entire lives. Designers cannot accomplish the goals of Design for the World alone. We need the partnership of individuals, of corporations, of foundations and of government to bring these ideas to fruition. The projects introduced here cost much money. In order to distribute 2.5 million of reusable masks free of charge for the first 8 months, we need 2 million dollars. It will require 70 million masks in the long run. The syringe project requires 2 million dollars, and with this fund, 62 million people can be covered.

Design for the World will work on a project basis. We need sponsors to implement our projects who share our goals. We will plan, coordinate and implement the projects, but there are many things that we cannot do. To succeed we need you as partners, partners in the generation of new worthwhile projects, partners in communicating the goals of Design for the World to a broader audience, partners in funding the organizations of worthwhile programs. We invite you to join us on this journey set out by Mr. Ekuan's imaginative initiative.

Discussion: Man cannot live by bread alone

Sato: Mr. Tamura spoke about the magical power of design. Is there any room for design to step into the causes of problems in this age of reform? If there is any role that design can play, what role will it be?

Tamura: Design has magical power as well as integrating power. If design which is now branched out in different specialties can be integrated, design will have significant strength, or magical power. The term "design" has a connotation which covers all design genres. Design for the World also has the same connotation. It can bring in such concepts as humanism and humanity, relations between technology and human hearts, tenderness, beauty, historic problems and so on into a world in which, until recently, only shapes and functions were valued.



Sato: Mr. Blaich referred to designers as pathfinders. How then can the problems of environment, population, medical care and refugees that had been discussed for the two days be fed back to the work of designers in the hall?

Blaich: I feel that my everyday life is just the same as the activity of Design for the World. We say that man cannot live by bread alone. The companies I referred to may consider whether they give contributions from a moral point of view or for their own survival. After all, social conscience is needed for the survival of a company. The most important thing for me is to realize Design for the World, and I am working toward it.

Sato: Mr. Hatano, former Japanese representative at the U.N., said the United States is puzzled about what to do to solve environmental and population issues because the perception of issues is different among people from different countries and religions.

Puig: We cannot change the world only by Design for the World. But we can send messages. I believe that corporations need to have designers who have strategic, and innovative ideas. The United Nations is such a huge organization, and has great difficulty in taking prompt action. Design for the World is a small, flexible organization that can move promptly. We can contribute to the world with our professional special-

Augusto Morello: We are a small organization, therefore, we need support from others. There are two types of support. One is to donate money, and the other is to be a participant. In either case, the important thing is to have conscience. Major companies can become partners or sponsors for our projects.

Fritz Frenkler: Corporations in the West are advised that they should allocate a certain percentage of their budget to humanitarian purposes.

Identifying Issues and Proposing Solutions

Ren Suzuki (from the floor): I do not differentiate architects and designers. The term "designer" is used with an ambiguous definition.

Osamu Ishiyama: I became a member of the Japan Institute of Design because I thought that I can feel more freedom being a designer than being an architect. An architect builds something, or plans something. I talked about a redevelopment project in Sao Paulo. This project involves many wider



セッション C「ワールドデザインの行動計画」

パネリスト: ロバート・ブレーク

アントニオ・プッシュ

田村 明 コーディネーター:佐藤 典司

いう話が紹介されました。関連してプッシュさんいかがですか。

プッシュ:勿論DWだけで世界を大きく変化させることは出来ません。しかしながらメッセージを発信していきたいと考えています。企業も戦略的なイノベーションという観点をもったデザインが必要であることを認識しています。DWはデザインの専門家が集まっている組織ですからデザイナーにとっても勿論貢献出来ますが、それだけではなく人類そのものにとっても貢献が出来ると考えています。国連や他の組織は巨大な腰の重い組織です。それに対してDWは機敏に動ける小さな組織であることも長所だと思います。

オーガスト・モレロ: 我々は小さな組織です、ですからサポートが必要なのです。サポートの形は2種類です。要するにお金を出して頂く形と、参加をする、実施主体になるという形でのサポートです。「良心を持つということ」、これがキーワードです。特に大手、重要な企業はパートナーとして、あるいはスポンサーとして参加頂くこと、サポート頂くことが大切になると思います。

フリッツ・フレンクラー:特に西洋の企業の場合、予算の一部を人道的目的のために使うことが、将来のあるべき姿であるとアドバイスをしています。

問題を自ら見出し解決策を提供して行く

進来 廉(会場):私は建築家とデザイナーを全く区別していません。日本でのデザイナーという言葉は曖昧なまま使われていると思うのですが。

石山 修武:私が日本デザイン機構に入っ



たのはデザイナーという職能の方が建築 家という職能より自由だと考えたからで す。今日、サンパウロのプロジェクトの 話をしましたが、建築家はものを建てる、 あるいは計画する人ですが、今の時代の 計画の概念だけではとても処理しきれな い問題が沢山ある。ですから私自身は建 築家という肩書きより、デザイナーとい う非常に曖昧な、しかし自由な概念の方 が私には適していると思っています。

ブレーク:デザインとは基本的に変化を起こすための計画であると考えています。そしてデザイナーはその変化をもたらすエージェント、代理人であるわけです。建築家、グラフィックデザイン、インダストリアルデザイン、そういったことに関わりなく単にデザイナーであるべきです。

デビッド・グロスマン: DWでやろうと している重要な作業は、つまり我々はプ ランナーであるという認識を確立するこ とにあります。我々は意志決定をし、生 きる環境を作っていくわけです、その環 境とは目に見えるもの、手で触れるもの、 そして空間的な環境全てです。その環境 を作っている人全てがデザイナーである ということと私は理解しています。もの が大事なのではありません。システムが 大事なのであると思います。つまり意志 決定をする上でのプロセスが大事である と考えています。環境、製品デザイナー、 インテリアデザイナーなど全てのデザイ ナーも結局は生活の質を向上させるため に仕事をするというのが前提条件ではな いでしょうか。DWの特徴は国際団体が 一つの決断をしたことです。つまり、問 題がこちらに来るまで待つことはない、



こちらが積極的に社会に出て解決策、ソ リューションを提供して行こうというも のです。

栄久庵 憲司:見えないものを見えるようにするには、我々が自分の魂を鍛えてセンシティブな感性を持たなければならない。そして本当にこれならやれると言うプロジェクトを課す。しかし一人では出来ない、どうしたらお互いが協力が出来るか、このどうしたら協力して出来るかということ、これが世界なのです。今こそ、協力という言葉が世界に通ずる時代が来たのです。

尚、討論の終わりに全パネリストが壇 上に上がり、上記の進来氏の他、佐野寛 氏、橋本昌也氏、川村暢夫氏からの質問、 意見を受け活発な応答が行われました。

(要約/佐野邦雄)

ロバート・ブレーク DW 副理事長/アメリカ 現在ブレーク・アソシエート主宰。前ハーマンミラー社デ ザイン副社長、前フィリップス電子(オランダ)上級デザ イン部長、ICSID名誉顧問、アスペン国際デザイン会議諮問 委員、英国王立美術協会会友、シラキュース大学美術学科 名誉数様(1990年)等。

アントニオ・ブッシュ DW監事/スペイン 工学博士、アントニオ・ブッシュS.Aを設立 (1962年)。 パコ・ラバンヌ香水設立 (1968年)、バルセロナ・デザインセンター理事長 (1997-現在)、ブッシュ美術振興財団創設等。

田村 明 日本デザイン機構監事 地域政策プランナー 法政大学名誉教授。運輸省、日本生命、環境開発センター、 横浜市企画調整局長等を歴任。横浜市では市の基幹事業の 立案実施、アーバンデザインチームを創設等。

佐藤 典司 日本デザイン機構幹事

電通新聞雑誌局、マーケティング局、ソフト化経済センター出向等を経て立命館大学経営学部環境デザインインスティテュート教授(デザインマネージメント、文化マネージメント)等。



Session C Action Plan of World Design

Robert Blaich Panelist:

Antonio Puig Akira Tamura

Coordinator: Noriji Sato

ranges of responsibilities beyond planning or building. So, I prefer being a designer than an architect, as it allows wider interpretation.

Blaich: I think that design is a plan to incite changes, and a designer is an agent to bring about such changes. I mean simply a designer, regardless of whether one is in architecture, graphic design or industrial design.

David Grossman: One important thing that Design for the World is going to do is to establish the recognition that we are planners. We decide and create an environment to live in. Such an environment embraces everything, the visible, the tangible and spatial environments. All people who are creating such environments are designers in my view. Objects are not important, rather, systems, in other words, decision-making processes are important. Designers of all branches, be it environment, product or interior, are working to improve the quality of our life.

A notable thing about Design for the World is that international design organizations made a decision that we should not wait until problems come to us, and that we should go out to find problems and offer solutions.

Kenji Ekuan: To make the invisible visible, we need to train our sensitivity. We impose on ourselves a feasible project. But such a project cannot be achieved by oneself. So we look for collaborators. We consider how we can cooperate in realizing a project. We are now at a time when the term "cooperation" finds a place to really occur.

At the end of the session, all the panelists went up on the stage, and had lively discussions with Mr. Suzuki, Hiroshi Sano, Masaya Hashimoto, Nobuo Kawamura.

(Summarized / Kunio Sano)

Robert Blaich: Vice President of DW / U.S.A

Principal Consultant of Blaich Associates.former Vice President of Design and Corporate Communications for the Herman Miller Inc., former Senior Director of Corporate Design for Philips Electronics, Senater of IC SID.

Advisory Board Member of the International Design Conference in Aspen, Fellow of the ID SA and the royal society of the Arts, U.K. Doctor of Fine Arts Honorary Degree by Syracuse University (1990).

Antonio Puig: Treasurer of DW/Spain

Phd. of Engineering. Found Antonio Puig SA (1962), found paco Rabanne Perfumes (1968), President of the Executive Board of BCD Foundation, founder of Puig Foundertion for the Endowment of Arts.

Akira Tamura: Auditor of Japan Insititute of Design, Regional Policy Planner. Worked for the Ministry of Transportation, japan Life Insurance, Environmental Development Center and appointed to Director of Planning Administration of Yokohama Cit. Planning and implementing infrastructure projects of Yokohama City and founded an urban design team.

Noriji Sato: Active Board Memder of Japan Institute of Design, Prof. of School of Business Administration, Environmental Design Institute.

Practicing design mangement and cultural mangement after jined to Press and Magazine Dept, Marketing Dept, and Center for Cost Performance of Software of Dentsu Inc.



DW Methodology

Alexander Manu









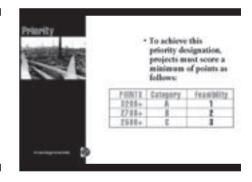
 Projects that are time sensitive, involve a large beneficiary base and serve all the mission statements of DW. These projects have an immediate user base benefit and are asswering an existing emergency need.











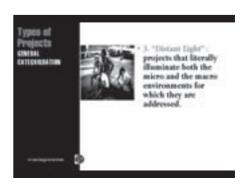












From the Secretariat 事務局から

日本デザイン機構ホームページの開設

ホームページhttp://www.voice-ofdesign.comを開設しました。今後機関誌 VOICE OF DESIGNと連動した情報提供 やフォーラムなどの案内をしていきま す。皆様からの情報提供やリンクのお申 し入れを受けています。ご希望の方は事 務局までご連絡ください。

理事会

4月6日国際文化会館で理事会を開催した。98年度事業報告と99年度事業計画の案を検討しました。98年度に新たにテーマとして加えた観光のデザインなどを99年度も継続的に検討するとともに、特別事業国際シンポジウムDesign for the World'99東京に関して討議を行いました。



理事会



理事会

Japan Institute of Design opened its Homepage http://www.voice-of-design.com

Board of Directors Meeting

The Board of Directors met on April 6, at the International House in Tokyo to review the report of activities for 1998 and discuss the plan of action for 1999. It decided that Design for Tourism which was added as a new theme in 1998 would be continuously dealt with. It also discussed matters relating to the International Symposium Design for the World '99 Tokyo.

総会

この理事会を経て、6月1日に通常総会を国際文化会館で開催した。昨年度事業および収支報告に続き、特別事業の国際シンポジウムを含めた今年度事業および収支計画案が討議をふまえて承認されました。また総会終了後の懇親会では、それぞれの所属する専門団体の国際組織にはたらきかけDesign for the Worldへの参加を促すなどの闊達な意見交換がもたれました。



総会



懇親会



懇親会

Annual assembly

The annual assembly was held on June 1, at the International House. After the reports on the activities and accounts of 1998, the programs proposed for 1999 including the special event of International Symposium and the budget for 1999 were discussed and approved. In the reception after the assembly, the participants were encouraged to work on the international design organizations to which they are affiliated to join Design for the World.

編集後記

本号はシンポジウムDesign for the Worldの記録を兼ねた特集号としました。その関係上、発行時期がずれました。また通常号の英文は抄訳でしたが、本号は和英を同じ分量としてあります。

シンポジウムのテーマは「地球をデザインする」でした。これを聞いて、ついにデザインは地球の形をいじるところまできたのか、という反応がありました。そしてシンポジウムで煙害用マスクや感染症予防のための使いきり注射器、段ボールの仮設トイレなどが具体的に提案され、傷む地球をいやすデザイン、地界を救うデザイン、世界を救うデザインという新たな期待が新聞雑誌の報道にあられています。そしてそのための具体的な行動の中での諸専門分野の連携は次代にとって必須のものと言えましょう。日本デザイン機構の趣旨が改めて証明された感があります。

JDのテーマとしてきたソーシャルデザインのクライアントが地球という時代です。地球が何を求めているのか、地に耳をあてて直に聞きたい昨今です。(迫田幸雄)

VOICE OF DESIGN VOL.5-2 1999年9月15日発行

発行人/栄久庵憲司 編集人/佐野邦雄 編集委員/迫田幸雄(委員長). 鳥越けい子. 黒田宏治 翻訳/林 千根 写真/石井勝次 発行所/日本デザイン機構事務局 〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-2-18 虎ノ門興業ビル7F 印刷所/株式会社高山

VOICE OF DESIGN Vol.5-2/Issued:Sept.15,1999 Published by Japan Institute of Design 1-2-18 Toranomon,Minato-ku,Tokyo 105-0001 Japan Phone:81-3-5521-1692 Fax:81-3-5521-1693 Publisher:Kenji Ekuan/Executive Editor:Kunio Sano Chief Editor:Yukio Sakoda/Translator:Chine Hayashi Photographer:Katuji Ishii/Printed by Takayama inc.

Editor's Note

The theme for the symposium was "Designing the Earth." Some reacted "Finally, design has come so far as to manipulate the earth." At the symposium, reusable pollution masks, singleuse syringes to prevent infection through needles, and temporary toilets using corrugated cardboard were presented. New expectations of design to heal the damaged earth, to protect earth and to save the world were felt. Linkage among different specialties will become essential for the future. (Yukio Sakoda)

